

第七章 結論

7-1 本研究の結論

本研究の目的は以下の3つである。

目的1：再生利用事業計画認定制度における食品リサイクルループの実施実態の把握。

目的2：再生利用事業計画認定制度に取り組む上での課題点の解明。

目的3：再生利用事業計画認定制度に取り組む上での課題に対する有効な改善策の提案。

上記の3つの目的を達成するために、文献調査やアンケート調査を基に研究を行った。本章では、これらの目的について結論を以下に述べる。

7-1-1 目的1の結論

再生利用事業計画認定制度の実施実態について明らかになったことを以下に示す。

(1) 食品リサイクルループに取り組むまでの計画段階の過程

制度の参加提案者の結果から食品関連事業者とリサイクル業者の二者が中心となってループが形成されることが多い。

制度への参加動機について、「環境問題を意識」「他者の存在」が動機となっている事業者が多く、リサイクル業者においては「事業者にとって有益」であるため参加した事例が多い。

計画段階の苦労について、全体としては「国・自治体とのやり取り」が最も多い。事業者ごとに見ると、食品関連事業者、リサイクル業者は、「国・自治体とのやり取り」が最も多い。農業者は、「関係者間の意見交換・調整」や「肥飼料の製造・利用」に関する苦労が挙げられていたが、傾向として、無回答が多く、計画段階においてそれほど苦労はなかったと考えられる。

(2) 再生利用事業計画認定制度の実施状況について

食品関連事業者について、食品リサイクルループに取り組む店舗数は二極化している。また、取り組む市町村数は1~5市町村が多く、限られたエリアで取り組む食品関連事業者が多い。実施店舗で発生する食品廃棄物の食品リサイクルループでの再生利用割合は、取り組む食品関連事業者はほとんどの食品廃棄物を再生利用する傾向がある。食品廃棄物の処理費用の平均は、市町村の処理費用に対して、リサイクル業者への食品廃棄物委託料金が1kgあたり9円高かった。

リサイクル業者について、取り組む再生利用事業は肥料化が最も多い。食品廃棄物の収集量は、ループ内事業者からの食品廃棄物の収集割合は、半数以上が91~100%である。ループ内事業者への再生利用製品の販売割合は70%の事業者が、91~100%をループ内農業者へ販売している。

農業者について、総肥飼料使用量のうち食品廃棄物由来の肥飼料使用割合は、全体の56.3%の事業者が91~100%であった。また、食品廃棄物由来の肥飼料のうち、ループ内の事

業者から購入した割合も 91~100%が最も多く、全体の 87.5%を占めた。再生利用製品を使用してみて、他の肥飼料と品質の違いがあった事業者は全体の 58.3%存在した。いい意味での違いの内容については「生育状況」「収穫量」「食味」に関する意見、反対に悪い意味での違いについては、「臭い」「異物の混入」「品質」に関する意見があった。

(3) 制度参加当初からの変化について

制度参加当初からの事業者数の変化については、食品関連事業者は増加した事例が多く、リサイクル業者は変化なしの事例が多く、農業者は増加した事例、変化なしの事例が同数であった。また、食品関連事業者と農業者に関しては減少した事例も見られた。

(4) 2010 年時点¹⁾と 2018 年の計画段階の比較

先行研究である、北ら¹⁾の調査結果との比較について、2010 年時点と比較して食品関連事業者が制度の参加提案者になった事例が増加した。また、認定以前の関係性について、2010 年と 2018 年で大きく異なる点は「食品関連事業者とリサイクル業者、食品関連事業者と農業者」が、それぞれ関係があったという事例が増えたことである。これらから食品関連事業者が中心になってループを形成する事例が増えたことが分かる。

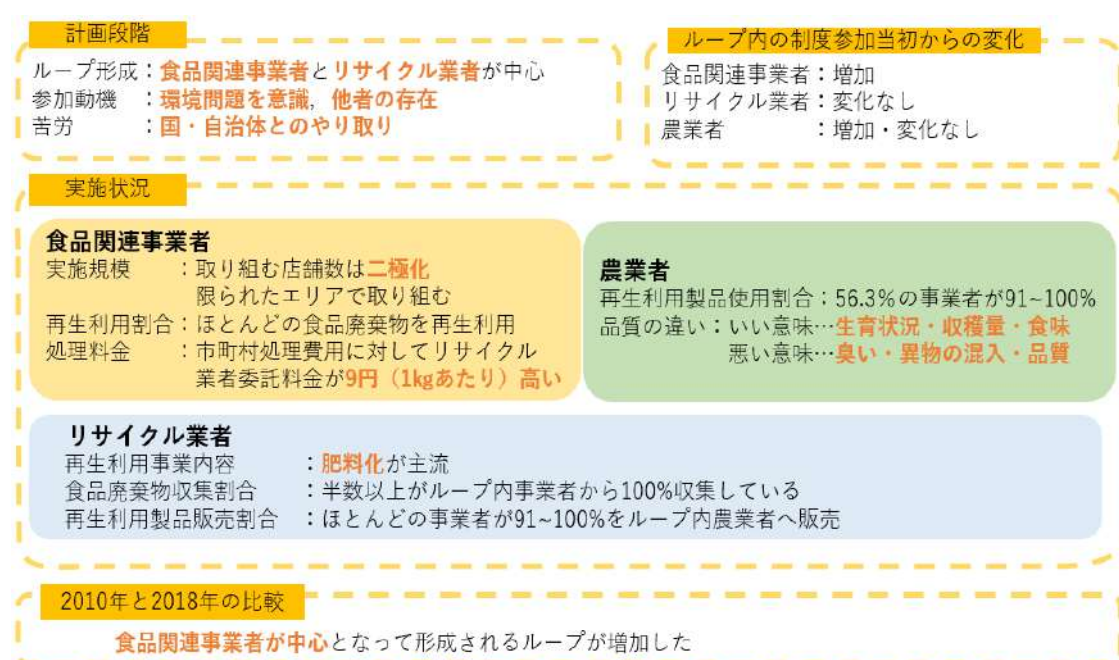


図 7-1 目的 1 の結論のまとめ

7-1-2 目的 2 の結論

再生利用事業計画認定制度に取り組む上での課題に関して明らかになったこと以下に示す。

(1) 再生利用事業計画認定制度の事業者による評価

再生利用事業計画認定制度のメリットについて、食品関連事業者は「食品循環資源の再生利用等実施率の向上」、リサイクル業者は「収集運搬の許可が不要」、農業者は「生産した農畜水産物の販売先確保」「周囲からの取り組みに関する認知」が多い。

再生利用事業計画認定制度のデメリットについて、食品関連事業者、リサイクル業者は「申請する際の提出書類が多い」、農業者は「周囲からの認知度が低い」が多い。

今後の継続意思について食品関連事業者、リサイクル業者は、「継続していきたい」と回答した事業者が多く取り組みに満足していると考えられる。

(2) 再生利用事業計画認定制度の課題と対策

再生利用事業計画認定制度に取り組むうえでの課題について、全体としては、「コスト面での課題」が最も多い。事業者ごとにみると、食品関連事業者は「商品の販売・仕入れ」「行政の対応」、リサイクル業者は、「コスト面での課題」「再生利用製品・農作物の品質」、農業者は、「コスト面での課題」が多い。

参加事業者が考える課題の重要度について、食品関連事業者、農業者の最も重要度の高い課題は、「認知度」、リサイクル業者は、「販売先確保（肥飼料）」が挙げられた。

重要な課題に対する対策の実施有無について、「実施している（た）」の割合をみると、食品関連事業者が 18.9%、農業者が 16.1%対して、リサイクル業者は 27.5%と他 2 事業者に比較してわずかではあるが対策を実施している割合が高い。

(3) 2010 年時点と 2018 年の事業者による評価の比較

制度のメリットを北らの先行研究¹⁾と比較すると、食品関連事業者は、「周囲からの取組に関する認知」「安心しておいしい農畜水産物の購入」が全体に占める割合として 2 倍以上増加した。

制度のデメリットを比較すると、事業者ごとに見ると、食品関連事業者は「周囲からの認知度が低い」を挙げている割合が 2010 年と比較して 2 倍以上に増加した。

事業者による評価・課題・対策			
	食品関連事業者	リサイクル業者	農業者
メリット	再生利用実施率の向上	収集運搬の許可が不要	農作物の販売先確保 取組に関する認知
デメリット	提出書類が多い	提出書類が多い	認知度が低い
課題	認知度	販売先確保（肥飼料）	認知度
対策実施率	18.9%	27.5%	16.1%

図 7-2 目的 2 の結論のまとめ

7-1-3 目的3の結論

再生利用事業計画認定制度に取り組む上での課題に対する有効な改善策を以下に示す。

(1) 重要な課題に対する有効な改善策

食品関連事業者が考える最も重要度の高い課題は「認知度」であり、「SNS、ブログ、メディアを使用して再生利用事業計画認定制度について発信する」「食品関連事業者に向けて、環境省や農林水産省から情報提供を行う」を有効な改善策として提案する。リサイクル業者が考える最も重要度の高い課題は「販売先確保（肥飼料）」であり、「興味を持ってくれた農業者にサンプルを無償提供し、食品リサイクルループへ取り組むきっかけにしよう」を有効な改善策として提案する。農業者が考える最も重要度の高い課題は「認知度」であるが有効な改善策はない。

(2) 食品関連事業者が考える課題に対する有効な改善策

有効な改善策 A は、課題「認知度（市民）」に対する有効な改善策は、「SNS、ブログ、メディアを使用して再生利用事業計画認定制度について発信する」、課題「認知度（事業者）」に対する有効な改善策は、「SNS、ブログ、メディアを使用して再生利用事業計画認定制度について発信する」「食品関連事業者に向けて、環境省や農林水産省から情報提供を行う」、課題「コストがかかる」に対する有効な改善策は、「従業員への教育を徹底し、無駄なコストをなくす」である。

有効な改善策 B はない。

(3) リサイクル業者が考える課題に対する有効な改善策

有効な改善策 A は、課題「販売先確保（肥飼料）」に対する、「興味を持ってくれた農業者にサンプルを無償提供し、食品リサイクルループへ取り組むきっかけにしよう」という改善策、課題「認知度（市民）」に対する、「施設見学・取材対応を積極的に受け付ける」という改善策である。

有効な改善策 B は、課題「認知度（市民）」に対する、「SNS、ブログ、メディアを使用して再生利用事業計画認定制度について発信する」という改善策、課題「認知度（事業者）」に対する、「SNS、ブログ、メディアを使用して再生利用事業計画認定制度について発信する」という改善策である。

(4) 農業者が考える課題に対する有効な改善策

有効な改善策 A は、課題「販売先確保（農作物）」に対する、「SNS、ブログ、メディアへの情報提供を行い、食品関連事業者に再生利用製品を用いて生産した農作物について知ってもらおう」という改善策である。

有効な改善策 B は、課題「付加価値の構築（農作物）」に対する、「リサイクルループという“物語性”を押し出して消費者への訴求に努める」という改善策、課題「肥飼料の安定確保」

に対する、「前年の納入や取組等について反省する機会をつくる」という改善策である。

(5) 予想に基づく有効な改善策

本文では改善策実施済事業者の改善可能性に基づく有効な改善策を提案したが、改善策未実施事業者の改善可能性を基に、予想に基づく有効な改善策の分析も行った（付録 13）。この改善策未実施事業者による改善策の評価は、改善策実施済事業者による改善策の評価と比較してサンプル数が多く、信頼性が高いといえる。その結果の中で特徴的な改善策について述べる。食品関連事業者については、課題「農作物の安定供給」に対して、「前年の納入や取組等について反省する機会をつくる」という改善策が提案できる。リサイクル業者については、課題「販売先確保（肥飼料）」に対して、「ブランド展開することによって再生利用製品を利用するという事に価値を持たせる」という改善策、課題「付加価値の構築（肥飼料）」に対して、「再生利用製品を利用することによる栄養素以外の評価項目の研究を行う」という改善策が提案できる。それぞれ、業界特有の改善策であり、特徴的であると考えられる。

7-2 本研究全体を通しての考察

本研究では、再生利用事業計画認定制度の普及には、課題に対する有効な改善策を提案することが必要であると考え、制度の実態把握と課題点の解明、改善策の有効性を明らかにすることを目的とした。まず、食品関連事業者、リサイクル業者、農業者の3者における再生利用事業計画認定制度の実施状況を明らかにし、そこから課題を見つけ、各課題に対する改善策を提示した。この改善策の中で、各事業者3つの有効な改善策（実施事業者からの改善可能性が高く、未実施事業者からの実施可能性が高い改善策）を挙げた。

食品関連事業者は、「SNS、ブログ、メディアを使用して再生利用事業計画認定制度について発信する」「食品関連事業者に向けて、環境省や農林水産省から情報提供を行う」「従業員への教育（分別方法等）を徹底し、無駄なコストをなくす」である。

リサイクル業者は、「興味を持ってくれた農業者にサンプルを無償提供し、食品リサイクルループへ取り組むきっかけにしてもらおう」「施設見学・取材対応を積極的に受け付ける」「SNS、ブログ、メディアを使用して再生利用事業計画認定制度について発信する」である。

農業者は、「リサイクルループという“物語性”を押し出して消費者への訴求に努める」「前年の納入や取組等について反省する機会をつくる」「SNS、ブログ、メディアへの情報提供を行い、食品関連事業者に再生利用製品を用いて生産した農作物について知ってもらう」である。

これらの改善策が、再生利用事業計画認定制度に取り組むうえでの課題に対して、改善策実施事業者による改善可能性が高く、改善策未実施事業者による実施可能性の評価が高い。そのためこれらの改善策を実施することで、再生利用事業計画認定制度の普及につながると考える。また、未実施事業者の実施可能性が低い場合でも、実施事業者からの改善可能性が高いものもあり、そのような改善策については、未実施事業者に対して丁寧に効果を説明

し改善策の実施を促す必要があるだろう。

次に、北・金谷の先行研究¹⁾の実施実態と比較して、食品関連事業者が中心となってループを形成する事例の割合が増加したことが大きな変化といえる。それは、制度の参加提案者に食品関連事業者が関わっている事例の割合が増加していたこと、認定以前の関係性について、「食品関連事業者とリサイクル業者、食品関連事業者と農業者」が、それぞれ関係があったという事例が増えたこと、制度への参加動機について「食品関連事業者から誘われた」という記述が多かったことなどから分かる。これらは、参加動機について、先行研究では挙げられていなかった「会社の方針」が本研究では多く挙げられていたことなどから分かるように、環境意識が高く会社として環境保全に積極的に努める食品関連事業者が増加したと考えられる。また、制度のメリットの比較において、「周囲からの取組に関する認知」が先行研究では全体の28.6%であったのが、本研究では67.5%に増加したことから分かるように、周囲に環境意識の高さをアピールしたいと考える食品関連事業者が増加したと考えられる。

この環境意識の変化について、近年、経済的価値だけでなく、社会的価値の創造を目指す企業が増加したことが背景としてあるだろう。²⁾ 相次ぐ不祥事が物語るように、倫理観の欠如は企業価値に莫大な影響を与える。そこで社会価値を創造するような事業を通して、より企業の社会性を高め、将来の競争力の強化につなげようとしている。³⁾ このような背景から、環境保全の観点から制度に取り組む事業者が増加したと考えられる。

また、制度の課題について、「時間がかかる」「提出書類が多い」等の行政との手続き上の課題（本研究では事業者としての改善策が考えられないため課題から省略した）が多く挙げられたことから、事業者の中間に立つ第三者の機関等の存在が必要であると考えられる。特にループ形成の中心に立つことの多い食品関連事業者、リサイクル業者においては「提出書類が多い」（食：80.6%、リ：76.0%）、「時間がかかる」（食：58.1%、リ：68.0%）を多くの事業者がデメリットとして挙げている。これらの負担が、制度の参加事業者の増加を妨げている可能性もあると考える。事業者の間に立ち、行政との手続き上の対応を担う第三者機関等の存在によって、より制度の参加事業者増加につながるのではないかと考える。

再生利用事業計画認定制度の促進に向け、今後の動向に注目したい。

7-3 今後の課題

本研究に取り組むにあたり、食品関連事業者、リサイクル業者、農業者の再生利用事業計画認定制度の実施実態について明らかにすることができ、制度における課題点とその課題に対する対策を把握し、課題に対する有効な改善策を提示するまで至った。しかしながら、事業者それぞれの全ての課題に対して有効な改善策を提案することが出来なかった。また、現在制度に取り組む事業者の課題に対する有効な改善策を提案することが出来たが、制度に参加していない事業者、制度に参加していたがやめてしまった事業者を対象に、課題点の解明、改善策の提案を行うことが出来なかった。これらの事業者を対象とし、制度の課題点の解明や、改善策の提案を行うことで、今後制度をさらに普及することが出来るようになる。

<参考文献>

- 1) 北朋子, 金谷健: 食品リサイクル法「再生利用事業計画認定制度」に基づく食品リサイクルループの実施実態, 土木学会論文集 G(環境), 67(6), pp.II_469-II_480(2011)
- 2) 禿慧二: 社会的責任と CSR に関する一考察, 立命館経営学, 56(3), pp.29-49(2017)
- 3) 葛西和廣・他: 食品産業における企業の社会的責任 (CSR) に関する研究 (Ⅲ) -CSR と社会的責任投資-, 松本大学研究紀要, 9, pp.47-58(2011)

謝辞

本研究を進めるにあたり、ご協力いただいた方々に心より御礼申し上げます。

本研究は、アンケート調査にご協力いただきました、農林水産省 HP 記載の再生利用事業計画認定制度の認定事業者の皆様のおかげで完成することが出来ました。多くの項目にわたるアンケートを度々実施させていただいたにも関わらず、貴重な情報やご意見を頂き、時には卒業論文作成への励ましのお言葉や体調へのお気遣いを頂きましたことに感謝申し上げます。

指導教員である金谷先生、本当にお世話になりました。私はもともと研究を進めようと思っていたテーマについて、方向性が見えず行き詰まったことがありました。その際も親身になって共に考えてくださり、良い方向へ導いてくださいました。また、毎週のゼミは本当に丁寧で、進捗が良くない時期もありましたが、見捨てず最後まで指導してくださいました。金谷先生のもとで卒業論文を執筆することが出来て幸せでした。ありがとうございました。

助言教員としてご指導いただいた香川先生には、とても的確なご指摘を頂きました。細かいミスも多かったのですが、細部まで確認していただき、感謝しております。また、自分では気づくことが出来なかったことを助言いただき、卒業論文をより良いものに仕上げることに繋がりました。ありがとうございました。

金谷研究室の齋藤さん、橋本さん、不破さん、北川さんにもお世話になりました。毎回のゼミ報告で皆様の進捗を知ることで自分への刺激になりました。金谷研究室で皆様と卒業論文を完成させることが出来てよかったですと思います。ありがとうございました。

改めて、本研究でお世話になった皆様に心から感謝申し上げます。

2019年2月20日

大石紗南

付録

目次

付録 1	制度の実施実態に関するアンケート依頼文	2
付録 2	制度の実施実態に関するアンケート調査票（食品関連事業者様）	4
付録 3	制度の実施実態に関するアンケート調査票（リサイクル業者様）	10
付録 4	制度の実施実態に関するアンケート調査票（農業者様）	16
付録 5	課題への対応策に関するアンケート依頼文	22
付録 6	課題への対応策に関するアンケート調査票（食品関連事業者様）	24
付録 7	課題への対応策に関するアンケート調査票（リサイクル業者様）	29
付録 8	課題への対応策に関するアンケート調査票（農業者様）	34
付録 9	改善策の実施可能性と改善可能性に関するアンケート依頼文	39
付録 10	改善策の実施可能性と改善可能性に関するアンケート調査票 （食品関連事業者様）	41
付録 11	改善策の実施可能性と改善可能性に関するアンケート調査票 （リサイクル業者様）	44
付録 12	改善策の実施可能性と改善可能性に関するアンケート調査票 （農業者様）	47
付録 13	改善策未実施事業者による改善策の評価	51
付録 14	参考及び引用 URL	60

付録1 制度の実施実態に関するアンケート依頼文

～食品リサイクル法「再生利用事業計画認定制度」認定事業者ご担当者の皆様へ～

「認定事業者」の再生利用事業計画実施状況についての御教示のお願い

向春の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

私、滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科 金谷研究室 3回生の大石紗南と申します。私は現在、「再生利用事業計画認定制度における食品リサイクルループの実態把握と改善策の提案」というテーマで、卒業研究を進めております。その一環として、再生利用事業計画認定制度に認定されている事業者の皆様へ、再生利用事業計画の実施状況を伺いたく、アンケートをお願いしています。

今回のアンケートでお伺いしたいのは次の4点です。

1. 食品リサイクルループの取り組み計画段階の過程について
2. 現在の実施内容について
3. 取り組みのメリットや今後の課題について
4. 制度参加当初からの変化

ご多忙のところ、大変恐縮ですが、お答えいただける範囲で結構ですので、別に添付の「アンケート回答例」をご参考に、2018年4月10日までに oi12soishi@ec.usp.ac.jp にメール添付でご返信いただければ幸いに存じます。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2018年3月20日

滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科
金谷研究室 3回生 大石紗南（調査担当者）

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500

研究室 TEL：0749-28-8279

FAX：0749-28-8349

E-mail：oi12soishi@ec.usp.ac.jp

<なお、以下は指導教員からのお願い文です>

大石紗南の指導教員の、滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 教授 金谷健と申します。このたびは、大変ご面倒なお願いをさせていただき、申し訳ございません。

差支えない範囲で結構ですので、ご教示いただければありがたく存じます。どうかよろしくお願ひします。

なお、当研究室の研究内容等は、下記サイトをご参照いただければ幸いに存じます。

金谷研究室 HP <http://kanayaken.web.fc2.com/>

【御教示していただくにあたってのお願い】

- ご回答は、特に断りのない場合には当てはまる番号を一つだけ□でお囲みください。
- アンケート票の本文では、食品関連事業者・リサイクル業者・農業者という表現が出てきますが、これは再生利用事業計画認定制度と一緒に認定されている事業者様のことを指します。
- 質問によっては、「その他（ ）」という選択肢がありますが、この選択肢をお選びになる場合には、（ ）内に具体的な内容をお書きください。
- なお、この調査票に関してご質問等ございましたら、上記の金谷研究室の大石まで、お電話・ファックスまたは E-mail にてご連絡いただきますようお願いいたします

お手数ですが、最初に貴社の基本情報についてお答えできる範囲でお教えてください。

会社名 : _____

住所 : _____

TEL : _____ FAX : _____

ご担当者様 : _____ 所属部署名 : _____

E-mail : _____ @ _____

なお、アンケートにご協力いただいた皆様のうち、調査結果の送付を希望される方には卒業論文完成後（2019年3月頃）に、卒業論文の要旨を送付させていただきます。

卒業論文の要旨の送付を希望されますか。

- 1.希望する （ a.郵送 b.メール添付：どちらかに□）
- 2.希望しない

付録2 制度の実施実態に関するアンケート調査票（食品関連事業者様）

1 食品リサイクルループに取り組むまでの計画段階の過程についてお聞きします。

問1 食品リサイクルループの取り組みを発案された方をお教えてください。

- [1. 食品関連事業者様 2. リサイクル業者様 3. 農業者様]

問2 食品リサイクルループに取り組もうと思われた動機をお教えてください。

問3 食品リサイクルループに取り組む以前から、他の事業者様とのお取引はありましたか。

- [1. リサイクル業者様・農業者様のどちらもあった
2. リサイクル業者様のみあった
3. 農業者様のみあった
4. リサイクル業者様・農業者様のどちらもなかった]

問4 「再生利用事業計画認定制度」に認定された認定年月日をお教えてください。

[年 月 日]

問5 農林水産省・環境省へ申請するまでに要した（システムの構築等から提出書類の作成までの）

期間および申請してから認定されるまでの期間をお教えてください。

申請するまでに要した期間 [] ヶ月

申請してから認定されるまでの期間 [] ヶ月

問6 (複数ある場合は主な) リサイクル業者様・農業者様との距離をお教えてください。

リサイクル業者様

[1. 0～25km 2 25～50km 3. 50～75km 4. 75～100km 5. 100km～]

農業者様

[1. 0～25km 2 25～50km 3. 50～75km 4. 75～100km 5. 100km～]

問7 計画段階の過程でご苦労されたことをお教えてください。

--

2 現在の実施内容についてお聞きします。

問1 食品リサイクルループに取り組まれておられる店舗数をお教えてください。

[] 店舗

問2 食品リサイクルループに取り組まれておられる市町村数をお教えてください。

[] 市町村

問3 問1でお答えいただいた店舗での食品廃棄物量をお教えてください。

[t / 月]

問4 問3のうち、食品リサイクルループで利用されている食品廃棄物量をお教えてください。

[t / 月]

問5 食品リサイクルループで利用される食品廃棄物の種類をお教えてください。(複数回答可)

[1. 野菜くず	2. 魚のあら	3. 卵のから]
	4. 食べ残し	5. 惣菜, お弁当	6. パン	
	7. その他()			

問 6 リサイクル業者様に食品廃棄物を委託する前に分別作業は行っておられますか。
行っておられる場合、どのように分別されておられるかお教えてください。

[1. 行っている 2. 行っていない]

問 7 リサイクル業者様に食品廃棄物を委託する前に生ゴミ処理機で一次処理を行っておられますか。一部の店舗で行っておられる場合は店舗数もお教えてください。

[1. 行っている
2. 一部の店舗で行っている [] 店舗
3. 行っていない]

問 8 リサイクル業者様へ食品廃棄物を委託する際の料金をお教えてください。

[円 / Kg]

問 9 食品廃棄物をゴミとして廃棄する場合にかかる、主な市町村の処理料金をお教えてください。

市町村名	処理料金
() [円 / Kg]
() [円 / Kg]
() [円 / Kg]
() [円 / Kg]

問 10 農業者様から購入されておられる農畜水産物の種類をお教えてください。

問 11 農業者様から購入されておられる農畜水産物の量についてお教えてください。

[1. 生産量の全てを購入する
2. 生産量の約 () %を購入する
3. その時々による
4. その他 ()]

問 12 農業者様から購入されておられる農畜水産物の価格の決定方法についてお教えてください。

- 1. 再生利用事業計画認定制度に認定された時から価格は決めていた
- 2. 1年間単位で価格を決めている
- 3. その時々による
- 4. その他 ()

3 取り組みのメリット・デメリットや今後の課題についてお聞きします。

問 1 再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）のメリットだと思われる点をお選びください。

- 1. 食品循環資源の再生利用等実施率の向上
- 2. 食品廃棄物の処理費用の削減
- 3. 安心して美味しい農畜水産物の購入
- 4. 収集運搬の許可が不要
- 5. 周囲からの取り組みに関する認知
- 6. その他 ()

問 2 再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）のデメリットや不満に思われる点をお選びください。

- 1. 申請する際の提出書類等が多い
- 2. 農林水産省・環境省とのやりとりが多く、認定されるまで時間がかかる
- 3. 周囲からの認知度が低い
- 4. 認定を受けた後の、取材等の対応が大変
- 5. その他 ()

問 3 食品リサイクルループを取り組む上で苦労した（している）ことをお教えてください。

問4 再生利用事業計画認定制度の計画の終期を過ぎても、この食品リサイクルループの取り組みを継続していただけますか。

[1. 継続していきたい 2. 継続していきたくない 3. わからない]

2. 継続していきたくない を選ばれた事業者様、理由をお教えてください。

問5 今後の課題についてお聞かせください。

4 制度参加当初からの変化についてお聞きします。

問1 食品リサイクルループに参加してから、リサイクル業者様へ委託する食品廃棄物の量はどうか変化しましたか。

[1. 増加した 2. 減少した 3. 変化なし 4. わからない]

問2 食品リサイクルループを構成する事業者数は、ループ形成当初と比べてどうか変化しましたか。

リサイクル業者様

[1. 増加した 2. 減少した 3. 変化なし 4. わからない]

食品関連事業者様

[1. 増加した 2. 減少した 3. 変化なし 4. わからない]

農業者様

[1. 増加した 2. 減少した 3. 変化なし 4. わからない]

5 事業者名を載せることについて

本研究において項目により事業者名を載せさせていただく場合があります。事業者名を載せることに問題のある項目に○をお付けください。○を付けていただいた項目につきましては統計的に処理させていただきますので、皆様にご迷惑をおかけすることは決してございません。

1

問1 () 問2 () 問3 () 問4 () 問5 () 問6 ()
問7 () 問8 () 問9 ()

2

問1 () 問2 () 問3 () 問4 () 問5 () 問6 ()
問7 () 問8 () 問9 () 問10 () 問11 () 問12 ()

3

問1 () 問2 () 問3 () 問4 () 問5 ()

4

問1 () 問2 ()

最後に、今後、大石が卒業研究で、「再生利用事業計画認定制度における食品リサイクルループの実施実態の把握と改善策の提案」について研究していくうえで、「こうした点を調査研究すべき、あるいは調査研究するとおもしろい」とお考えの点がございましたら、是非ご教示いただければ幸いです。

回答欄

長い間、面倒な質問にお答えいただき、ありがとうございました。この結果は、大切に使用させていただきます。この調査に関してのご感想、ご意見等、何かございましたら、以下にご記入いただければ幸いです。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

付録3 制度の実施実態に関するアンケート調査票（リサイクル業者様）

1 食品リサイクルループに取り組むまでの計画段階の過程についてお聞きします。

問1 食品リサイクルループの取り組みを発案された方をお教えてください。

[1. 食品関連事業者様 2. リサイクル業者様 3. 農業者様]

問2 食品リサイクルループに取り組もうと思われた動機をお教えてください。

問3 食品リサイクルループに取り組む以前から、他の事業者様とのお取引はありましたか。

- 1. 食品関連事業者様・農業者様のどちらもあった
- 2. 食品関連事業者様のみあった
- 3. 農業者様のみあった
- 4. 食品関連事業者様・農業者様のどちらもなかった

問4 「再生利用事業計画認定制度」に認定された認定年月日をお教えてください。

[年 月 日]

問5 農林水産省・環境省へ申請するまでに要した（システムの構築等から提出書類の作成までの）

期間および申請してから認定されるまでの期間をお教えてください。

申請するまでに要した期間 [] ヶ月

申請してから認定されるまでの期間 [] ヶ月

問6 （複数ある場合は主な）食品関連事業者様・農業者様との距離で当てはまるものをお選びください。

食品関連事業者様

[1. 0～25km 2 25～50km 3. 50～75km 4. 75～100km 5. 100km～]

農業者様

[1. 0～25km 2 25～50km 3. 50～75km 4. 75～100km 5. 100km～]

問7 計画段階の過程でご苦労されたことをお教えてください。

2 現在の実施内容についてお聞きします。

問1 2018年3月現在の再生利用事業の内容をお教えてください。(複数回答可)

[1. 肥料化 2. 飼料化 3. 油脂化 4. 油脂製品化 5. メタン化
6. 炭化 7. その他 ()]

問2 問1で選択された再生利用事業の内容のうち、食品リサイクルループでの再生利用事業の内容をお教えてください。(複数回答可)

[1. 肥料化 2. 飼料化 3. 油脂化 4. 油脂製品化 5. メタン化
6. 炭化 7. その他 ()]

問3 食品廃棄物収集量をお教えてください。

[t / 月]

問4 問3のうち、食品関連事業者様から収集する食品廃棄物量をお教えてください。

[t / 月]

問5 食品関連事業者様から食品廃棄物を収集する際の受入料金をお教えてください。

[円 / Kg]

問6 食品関連事業者様以外からも食品廃棄物を収集されている場合、その主な事業者様のお名前と収

集する食品廃棄物量を差し支えなければお教えてください。

事業者様のお名前	収集量
()	[t / 月]
()	[t / 月]
()	[t / 月]

問 7 食品廃棄物資源化施設の 1 日の処理能力をお教えてください.

[t / 日]

また, 食品廃棄物資源化施設の稼働率をお教えてください.

[%]

問 8 食品廃棄物資源化施設で生産される再生利用製品の名称, 生産工程, 特徴をお教えてください.

製品の名称	
生産工程	
特徴	

問 9 食品廃棄物資源化施設で生産される再生利用製品の量をお教えてください.

[t / 月]

問 10 問 9 のうち, 農業者様に販売する再生利用製品の量をお教えてください.

[t / 月]

問 11 農業者様以外にも再生利用製品を販売されている場合, その主な事業者様のお名前と販売する再生利用製品の量を差し支えなければお教えてください.

事業者様のお名前

販売量

() [t / 月]

() [t / 月]

() [t / 月]

問 12 農業者様に販売する再生利用製品の価格をお教えてください.

[円 / Kg]

③ 取り組みのメリット・デメリットや今後の課題についてお聞きします。

問 1 再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）のメリットだと思われる点をお選びください。（複数回答可）

- （
1. 収集する食品廃棄物の確保
 2. 再生利用製品の販売先の確保
 3. 収集運搬の許可が不要
 4. 周囲からの取り組みに関する認知
 5. その他（
- ）

問 2 再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）のデメリットや不満に思われる点をお選びください。（複数回答可）

- （
1. 申請する際の提出書類等が多い
 2. 農林水産省・環境省とのやりとりが多く、認定されるまで時間がかかる
 3. 周囲からの認知度が低い
 4. 認定を受けた後の、取材等の対応が大変
 5. その他（
- ）

問 3 食品リサイクルループを取り組む上で苦労した（している）ことをお教えてください。

問 4 再生利用事業計画認定制度の計画の終期を過ぎても、この食品リサイクルループの取り組みを継続していただけますか。

[1. 継続していきたい 2. 継続していきたくない 3. わからない]

2. 継続していきたくない を選ばれた事業者様、理由をお教えてください。

問5 今後の課題についてお聞かせください。

4 制度参加当初からの変化についてお聞きします。

問1 食品リサイクルループに参加してから、再生利用製品の生産量はどう変化しましたか。

[1. 増加した 2. 減少した 3. 変化なし 4. わからない]

問2 食品リサイクルループを構成する事業者数は、ループ形成当初と比べてどう変化しましたか。

また、増加、もしくは減少を選ばれた場合、具体的な数字が分かればお教えください。

リサイクル業者様

[1. 増加した 2. 減少した 3. 変化なし 4. わからない]

(当初: 事業者 → 現在: 事業者)

食品関連事業者様

[1. 増加した 2. 減少した 3. 変化なし 4. わからない]

(当初: 事業者 → 現在: 事業者)

農業者様

[1. 増加した 2. 減少した 3. 変化なし 4. わからない]

(当初: 事業者 → 現在: 事業者)

5 事業者名を載せることについて

本研究において項目により事業者名を載せさせていただく場合があります。事業者名を載せることに問題のある項目に○をお付けください。○を付けていただいた項目につきましては統計的に処理させていただきますので、皆様にご迷惑をおかけすることは決してございません。

1 問1 () 問2 () 問3 () 問4 () 問5 () 問6 () 問7 ()

2 問1 () 問2 () 問3 () 問4 () 問5 () 問6 ()

問7 () 問8 () 問9 () 問10 () 問11 ()

3 問1 () 問2 () 問3 () 問4 () 問5 ()

4 問1 () 問2 ()

最後に、今後、大石が卒業研究で、「再生利用事業計画認定制度における食品リサイクルループの実施実態の把握と改善策の提案」について研究していくうえで、「こうした点を調査研究すべき、あるいは調査研究するとおもしろい」とお考えの点がございましたら、是非ご教示いただければ幸いです。

回答欄

長い間、面倒な質問にお答えいただき、ありがとうございました。この結果は、大切に使用させていただきます。この調査に関してのご感想、ご意見等、何かございましたら、以下にご記入いただければ幸いです。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

付録4 制度の実施実態に関するアンケート調査票（農業者様）

1 食品リサイクルループに取り組むまでの計画段階の過程についてお聞きします。

問1 食品リサイクルループの取り組みを発案された方をお教えてください。

[1. 食品関連事業者様 2. リサイクル業者様 3. 農業者様]

問2 食品リサイクルループに取り組もうと思われた動機をお教えてください。

問3 食品リサイクルループに取り組む以前から、他の事業者様とのお取引はありましたか。

- 1. 食品関連事業者様・リサイクル業者様のどちらもあった
- 2. 食品関連事業者様のみあった
- 3. リサイクル業者様のみあった
- 4. 食品関連事業者様・リサイクル業者様のどちらもなかった

問4 「再生利用事業計画認定制度」に認定された認定年月日をお教えてください。

[年 月 日]

問5 農林水産省・環境省へ申請するまでに要した（システムの構築等から提出書類の作成までの）

期間および申請してから認定されるまでの期間をお教えてください。

申請するまでに要した期間 [] ヶ月

申請してから認定されるまでの期間 [] ヶ月

問6 （複数ある場合は主な）食品関連事業者様・リサイクル業者様との距離をお教えてください。

食品関連事業者様

[1. 0～25km 2. 25～50km 3. 50～75km 4. 75～100km 5. 100km～]

リサイクル業者様

[1. 0～25km 2. 25～50km 3. 50～75km 4. 75～100km 5. 100km～]

問7 計画段階の過程でご苦労されたことをお教えてください。

2 現在の実施内容についてお聞きします。

問1 1ヶ月間で購入する、肥料もしくは飼料の量をお教えてください。

[t / 月]

問2 問1のうち、食品廃棄物由来の肥料もしくは飼料（再生利用製品）の量をお教えてください。

[t / 月]

問3 問2のうち、食品リサイクルループ内のリサイクル業者様から購入する再生利用製品の量をお教えてください。

① [t / 月]

問4 再生利用製品を食品リサイクルループ内のリサイクル業者様以外からも購入されている場合、その事業者様のお名前と購入されておられる量を差し支えなければお教えてください。

事業者様のお名前

購入量

② () [t / 月]

③ () [t / 月]

④ () [t / 月]

問5 問3、問4でお答えいただいた、再生利用製品の価格をお教えてください。

① [円 / Kg]

② [円 / Kg]

③ [円 / Kg]

④ [円 / Kg]

問 6 再生利用製品以外の肥料もしくは飼料も使用されている場合、その肥料もしくは飼料の価格をお教えてください。

[円 / Kg]

問 7 食品残渣から生産された再生利用製品を使用することに抵抗はありましたか。

[1. あった 2. なかった]

問 8 再生利用製品を実際に使用されて、他の肥料や飼料との違いはありましたか。あつた場合、どのような違いが見られたのかも教えてください。

[1. あつた 2. なかつた 3. わからぬ]

問 9 生産されておられる農畜水産物の種類をお教えてください。

(例) キャベツと人参

問 10 問 9 のうち、食品リサイクル内の食品関連事業者様へ販売する農畜水産物の種類をお教えてください。

問 11 生産されておられる農畜水産物の量をお教えてください。

[t / 月]

問 12 問 11 のうち、食品リサイクルループ内の食品関連事業者様へ販売する農畜水産物の量についてお教えてください。

- 1. 生産量の全てを販売する
- 2. 生産量の約 () %を販売する
- 3. その時々による
- 4. その他 ()

3 取り組みのメリット・デメリットや今後の課題についてお聞きします。

問 1 再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）のメリットだと思われる点をお選びください。

- 1. 生産した農畜水産物の販売先の確保
- 2. 質の良い再生利用製品の確保
- 3. 周囲からの取り組みに関する認知
- 4. その他 ()

問 2 再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）のデメリットや不満に思われる点をお選びください。

- 1. 申請する際の提出書類等が多い
- 2. 農林水産省・環境省とのやりとりが多く、認定されるまで時間がかかる
- 3. 周囲からの認知度が低い
- 4. 認定を受けた後の、取材等の対応が大変
- 5. その他 ()

問 3 食品リサイクルループを取り組む上で苦労した（している）ことをお教えてください。

問4 再生利用事業計画認定制度の計画の終期を過ぎても、この食品リサイクルループの取り組みを継続していかれますか。

[1. 継続していきたい 2. 継続していきたくない 3. わからない]

2. 継続していきたくない を選ばれた事業者様、理由をお教えてください。

問5 今後の課題についてお聞かせください。

4 制度参加当初からの変化についてお聞きします。

問1 食品リサイクルループに参加してから、再生利用製品の使用量はどうか。

[1. 増加した 2. 減少した 3. 変化なし 4. わからない]

問2 食品リサイクルループを構成する事業者数は、ループ形成当初と比べてどうか。

リサイクル業者様

[1. 増加した 2. 減少した 3. 変化なし 4. わからない]

食品関連事業者様

[1. 増加した 2. 減少した 3. 変化なし 4. わからない]

農業者様

[1. 増加した 2. 減少した 3. 変化なし 4. わからない]

5 事業者名を載せることについて

本研究において項目により事業者名を載せさせていただく場合があります。事業者名を載せることに問題のある項目に○をお付けください。○を付けていただいた項目につきましては統計的に処理させていただきますので、皆様にご迷惑をおかけすることは決してございません。

1 問1 () 問2 () 問3 () 問4 () 問5 () 問6 ()
問7 () 問8 ()

2 問1 () 問2 () 問3 () 問4 () 問5 () 問6 ()
問7 () 問8 () 問9 () 問10 () 問11 () 問12 ()

3 問1 () 問2 () 問3 () 問4 () 問5 ()

4 問1 () 問2 ()

最後に、今後、大石が卒業研究で、「再生利用事業計画認定制度における食品リサイクルループの実施実態の把握と改善策の提案」について研究していくうえで、「こうした点を調査研究すべき、あるいは調査研究するとおもしろい」とお考えの点がございましたら、是非ご教示いただければ幸いです。

回答欄

長い間、面倒な質問にお答えいただき、ありがとうございました。この結果は、大切に使用させていただきます。この調査に関してのご感想、ご意見等、何かございましたら、以下にご記入いただければ幸いです。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

付録5 課題への対応策に関するアンケート依頼文

～食品リサイクル法「再生利用事業計画認定制度」認定事業者ご担当の皆様へ～

「認定事業者」の再生利用事業計画に対する課題と対策についての御教示のお願い

私、滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科 金谷研究室 4回生の大石紗南と申します。3月度にお願い致しましたアンケート調査では、ご回答頂き、誠にありがとうございました。アンケート調査結果を踏まえ、引き続き「再生利用事業計画認定制度における食品リサイクルループの実態把握と改善策の提案」というテーマで、卒業研究を進めております。その一環として、再生利用事業計画認定制度に認定されている事業者の皆様へ、再生利用事業計画に取り組むうえでの課題と対応策を伺いたく、アンケートをお願いしています。

ご多忙のところ、大変恐縮ですが、お答えいただける範囲で結構ですので、別に添付の「アンケート回答例」をご参考に、2018年9月14日までに oi12soishi@ec.usp.ac.jpにメール添付でご返信いただければ幸いに存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2018年8月24日

滋賀県立大学 環境科学部環境政策・計画学科

金谷研究室 4回生 大石紗南（調査対象者）

e-mail : oi12soishi@ec.usp.ac.jp

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500

研究室 TEL : 0749-28-8279

FAX : 0749-28-8349

<なお、以下は指導教員からのお願い文です>

大石紗南の指導教員の、滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 教授 金谷健と申します。このたびは、大変ご面倒なお願いをさせていただき、申し訳ございません。

差支えない範囲で結構ですので、ご教示いただければありがたく存じます。どうかよろしくお願い申し上げます。

なお、当研究室の研究内容等は、下記サイトをご参照いただければ幸いに存じます。

金谷研究室 HP <http://kanayaken.web.fc2.com/>

【御教示していただくにあたってのお願い】

- ご回答は、特に断りのない場合には当てはまる番号を一つだけ□でお囲みください。
- 回答がその他の場合は、説明を「 」にご教示ください。
- なお、この調査票に関してご質問等ございましたら、上記の金谷研究室の大石まで、お電話または E-mail にてご連絡いただきますようお願いいたします。

お手数ですが、最初に貴社の基本情報についてお答えできる範囲でお教えてください。

会社名 : _____

住所 : _____

TEL : _____ FAX : _____

ご担当者様 : _____ 所属部署名 : _____

E-mail : _____ @ _____

目次

p.2 目次

p.3 大問 1 再生利用事業計画認定制度に取り組むうえでの課題

p.4 大問 2 課題への対策内容①

p.5 大問 3 課題への対策内容②

p.6 大問 4 課題への対策内容③

p.7 大問 5 情報公開可否

付録6 課題への対応策に関するアンケート調査票（食品関連事業者様）

再生利用事業計画認定制度に取り組むうえでの課題についてお尋ねします

問1 前回のアンケート結果から、再生利用事業計画認定制度に取り組むうえでの課題を以下のA~Kのように考えています。A~Kの選択肢から貴社の該当する課題の中で、特に重要と認識されている課題を上位3つまでご教示ください。

※選択肢の後ろの（ ）に、貴社が重要と認識されている課題から順に、1, 2, 3とご記入ください。

- | | |
|------------------------------------|-----|
| A 申請する際の提出書類等が多い | () |
| B 食品リサイクルループの周囲からの認知度が低い | () |
| C 農林水産省・環境省とのやりとりが多く、認定されるまで時間がかかる | () |
| D 食品リサイクルループの認定を受けた後の、取材等の対応が大変 | () |
| E コストがかかる | () |
| F 参加事業者の増加 | () |
| G 制度に取り組む人員の確保 | () |
| H 廃棄処分する際より手間がかかる | () |
| I その他 「」 | () |
| J その他 「」 | () |
| K その他 「」 | () |

課題への対策内容についてお尋ねします

問2 問1でご回答いただいた、1番重要と認識されている課題への対策についてお尋ねします。

2-1 課題への対策は実施されていますか。

(1. 実施している 2. 実施していない 3. その他「 _____ 」)

※以降は、2-1で「実施している」を選択された方にお聞きします。「実施していない」を選択された方は、問3へお進みください。

2-2 対策内容についてご教示ください。

2-3 対策はいつから実施していますか。

(_____ 年 ~ 実施 _____)

2-4 対策を実施するうえで注意した点についてご教示ください。

問3 問 1 でご回答いただいた、2番目に重要と認識されている課題への対策についてお尋ねします。

3-1 課題への対策は実施されていましたか。

(1. 実施している 2. 実施していない 3. その他「 」)

※以降は、3-1 で「実施している」を選択された方にお聞きします。「実施していない」を選択された方は、**問4**へお進みください。

3-2 対策内容についてご教示ください。

--

3-3 対策はいつから実施していますか。

(_____年 ~ 実施)

3-4 対策を実施するうえで注意した点についてご教示ください。

--

問4 問 1 でご回答いただいた、3番目に重要と認識されている課題への対策についてお尋ねします。

4-1 課題への対策は実施されていましたが、

(1. 実施している 2. 実施していない 3. その他
「 」)

※以降は、4-1 で「実施している」を選択された方にお聞きします。「実施していない」を選択された方は、**問5**へお進みください。

4-2 対策内容についてご教示ください。

4-3 対策はいつから実施していますか。

(年 ~ 実施)

4-4 対策を実施するうえで注意した点についてご教示ください。

問5 事業所名を載せることについて

本研究において項目により事業者名を載せさせていただく場合があります。事業所名を載せることに問題のある項目に○をお付けください。○をつけて頂いた項目につきましては統計的に処理させていただきますので、皆様にご迷惑をおかけすることは決してございません。

問1 ()

問2 2-1 () 2-2 () 2-3 () 2-4 ()

問3 3-1 () 3-2 () 3-3 () 3-4 ()

問4 4-1 () 4-2 () 4-3 () 4-4 ()

全ての設問において事業所名を載せることに問題がある ()

質問は以上です。長い間、ご面倒な質問にお答えいただき、ありがとうございました。この結果は大切に使用させていただきます。この調査に関してのご感想、ご意見等、何かございましたら、以下にご記入いただければ幸いです。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

付録7 課題への対応策に関するアンケート調査票（リサイクル業者様）

再生利用事業計画認定制度に取り組むうえでの課題についてお尋ねします

問1 前回のアンケート結果から、再生利用事業計画認定制度に取り組むうえでの課題を以下の A~M のように考えています。 A~M の選択肢から貴社の該当する課題の中で、特に重要と認識されている課題を上位3つまでご教示ください。

※選択肢の後ろの（ ）に、貴社が重要と認識されている課題から順に、1, 2, 3 とご記入ください。

- | | | |
|---|----------------------------------|-----|
| A | 申請する際の提出書類等が多い | () |
| B | 食品リサイクルループの周囲からの認知度が低い | () |
| C | 農林水産省・環境省とのやりとりが多く、認定されるまで時間がかかる | () |
| D | 食品リサイクルループの認定を受けた後の、取材等の対応が大変 | () |
| E | コストがかかる | () |
| F | 参加事業者の増加 | () |
| G | 制度に取り組む人員の確保 | () |
| H | 再生利用製品（肥飼料）の品質向上 | () |
| I | 再生利用製品（肥飼料）に対する付加価値の構築 | () |
| J | 再生利用製品の販売先確保 | () |
| K | その他 「 」 | () |
| L | その他 「 」 | () |
| M | その他 「 」 | () |

課題への対策内容についてお尋ねします

問2 問1でご回答いただいた、1番重要と認識されている課題への対策についてお尋ねします。

2-1 課題への対策は実施されていますか。

(1. 実施している 2. 実施していない 3. その他「 」)

※以降は、2-1で「実施している」を選択された方にお聞きします。「実施していない」を選択された方は、**問3**へお進みください。

2-2 対策内容についてご教示ください。

2-3 対策はいつから実施していますか。

(_____年 ~ 実施)

2-4 対策を実施するうえで注意した点についてご教示ください。

問3 問 1 でご回答いただいた、2番目に重要と認識されている課題への対策についてお尋ねします。

3-1 課題への対策は実施されていましたか。

(1. 実施している 2. 実施していない 3. その他「 」)

※以降は、3-1 で「実施している」を選択された方にお聞きします。「実施していない」を選択された方は、問4へお進みください。

3-2 対策内容についてご教示ください。

3-3 対策はいつから実施していますか。

(_____年 ~ 実施)

3-4 対策を実施するうえで注意した点についてご教示ください。

問5 事業所名を載せることについて

本研究において項目により事業者名を載せさせていただく場合があります。事業所名を載せることに問題のある項目に○をお付けください。○をつけて頂いた項目につきましては統計的に処理させていただきますので、皆様にご迷惑をおかけすることは決してございません。

問1 ()

問2 2-1 () 2-2 () 2-3 () 2-4 ()

問3 3-1 () 3-2 () 3-3 () 3-4 ()

問4 4-1 () 4-2 () 4-3 () 4-4 ()

全ての設問において事業所名を載せることに問題がある ()

質問は以上です。長い間、ご面倒な質問にお答えいただき、ありがとうございました。この結果は大切に使用させていただきます。この調査に関してのご感想、ご意見等、何かございましたら、以下にご記入いただければ幸いです。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

付録 8 課題への対応策に関するアンケート調査票（農業者様）

再生利用事業計画認定制度に取り組むうえでの課題についてお尋ねします

問 1 前回のアンケート結果から、再生利用事業計画認定制度に取り組むうえでの課題を以下の A~M のように考えています。 A~M の選択肢から貴社の該当する課題の中で、特に重要と認識されている課題を上位 3 つまでご教示ください。

※選択肢の後ろの（ ）に、貴社が重要と認識されている課題から順に、1, 2, 3 とご記入ください。

- | | | |
|---|----------------------------------|-----|
| A | 申請する際の提出書類等が多い | () |
| B | 食品リサイクルループの周囲からの認知度が低い | () |
| C | 農林水産省・環境省とのやりとりが多く、認定されるまで時間がかかる | () |
| D | 食品リサイクルループの認定を受けた後の、取材等の対応が大変 | () |
| E | コストがかかる | () |
| F | 参加事業者の増加 | () |
| G | 制度に取り組む人員の確保 | () |
| H | 肥飼料の安定した供給確保 | () |
| I | 生産した農作物の販売先確保 | () |
| J | 生産した農作物に対する付加価値の構築 | () |
| K | その他 「」 | () |
| L | その他 「」 | () |
| M | その他 「」 | () |

課題への対策内容についてお尋ねします

問2 問1でご回答いただいた、1番重要と認識されている課題への対策についてお尋ねします。

2-1 課題への対策は実施されていますか。

(1. 実施している 2. 実施していない 3. その他「 _____ 」)

※以降は、2-1で「実施している」を選択された方にお聞きします。「実施していない」を選択された方は、**問3**へお進みください。

2-2 対策内容についてご教示ください。

--

2-3 対策はいつから実施していますか。

(_____年 ~ 実施 _____)

2-4 対策を実施するうえで注意した点についてご教示ください。

--

問3 問1でご回答いただいた、2番目に重要と認識されている課題への対策についてお尋ねします。

3-1 課題への対策は実施されていましたか。

(1. 実施している 2. 実施していない 3. その他「 _____ 」)

※以降は、3-1で「実施している」を選択された方にお聞きします。「実施していない」を選択された方は、**問4**へお進みください。

3-2 対策内容についてご教示ください

3-3 対策はいつから実施していますか。

(_____年 ~ 実施 _____)

3-4 対策を実施するうえで注意した点についてご教示ください。

問4 問1でご回答いただいた、3番目に重要と認識されている課題への対策についてお尋ねします。

4-1 課題への対策は実施されましたか。

(1. 実施している 2. 実施していない 3. その他「 」)

※以降は、4-1で「実施している」を選択された方にお聞きします。「実施していない」を選択された方は、**問5**へお進みください。

4-2 対策内容についてご教示ください。

4-3 対策はいつから実施していますか。

(_____年 ~ 実施)

4-4 対策を実施するうえで注意した点についてご教示ください。

問5 事業所名を載せることについて

本研究において項目により事業者名を載せさせていただく場合があります。事業所名を載せることに問題のある項目に○をお付けください。○をつけて頂いた項目につきましては統計的に処理させていただきますので、皆様にご迷惑をおかけすることは決してございません。

問1 ()

問2 2-1 () 2-2 () 2-3 () 2-4 ()

問3 3-1 () 3-2 () 3-3 () 3-4 ()

問4 4-1 () 4-2 () 4-3 () 4-4 ()

全ての設問において事業所名を載せることに問題がある ()

質問は以上です。長い間、ご面倒な質問にお答えいただき、ありがとうございました。この結果は大切に使用させていただきます。この調査に関してのご感想、ご意見等、何かございましたら、以下にご記入いただければ幸いです。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

付録9 改善策の実施可能性と改善可能性に関するアンケート依頼文

～食品リサイクル法「再生利用事業計画認定制度」認定事業者ご担当の皆様へ～

再生利用事業計画実施における課題への対策の実施可能性・改善可能性についての御教示のお願い

私，滋賀県立大学 環境科学部 環境政策・計画学科 金谷研究室 4回生の大石紗南と申します。これまでにお願ひ致しましたアンケート調査では，ご回答頂き，誠にありがとうございます。アンケート調査結果を踏まえ，引き続き「再生利用事業計画認定制度における食品リサイクルループの実態把握と改善策の提案」というテーマで，卒業研究を進めております。その一環として，再生利用事業計画認定制度に認定されている事業者の皆様に，制度のさらなる充実や課題解決に向けた促進策に対する貴事業者としての実施可能性・改善可能性について伺いたく，申し訳ありませんが，追加アンケートをお願いできましたら幸いです。

ご多忙のところ，大変恐縮ですが，お答えいただける範囲で結構ですので，ご回答いただければありがたく存じます。

なお，この追加アンケートはご教示可能な範囲で結構ですのでご回答いただき，2018年12月 日までに，同封する返信用封筒にて，ご送付いただければ幸いに存じます。ご教示いただいた情報につきましては，厳重に管理し用済み後は確実に消去及び廃棄いたしますのでご安心ください。どうぞよろしくお願ひします。

この調査票に関してご質問等ございましたら，下記の E-mail アドレスまでお問合せいただければ幸いです。

2018年11月 日

滋賀県立大学 環境科学部環境政策・計画学科
金谷研究室 4回生 大石紗南（調査対象者）

e-mail : oi12soishi@ec.usp.ac.jp

〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500

研究室 TEL : 0749-28-8279

FAX : 0749-28-8349

<なお、以下は指導教員からのお願い文です>

大石紗南の指導教員の、滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科 教授 金谷健と申します。このたびは、大変ご面倒なお願いをさせていただき、申し訳ございません。

差支えない範囲で結構ですので、ご教示いただければありがたく存じます。どうかよろしく申し上げます。

なお、当研究室の研究内容等は、下記サイトをご参照いただければ幸いに存じます。

金谷研究室 HP <http://kanayaken.web.fc2.com/>

お手数ですが、最初に貴社の基本情報についてお答えできる範囲でお教えてください。

前回のアンケートと同様の方が記入される場合は、事業所名とお名前だけで結構です。

会社名 : _____

住所 : _____

TEL : _____ FAX : _____

ご担当者様 : _____ 所属部署名 : _____

E-mail : _____ @ _____

付録 10 改善策の実施可能性と改善可能性に関するアンケート調査票（食品関連事業者）

これまでのアンケートの結果より、再生利用事業計画認定制度に取り組む上での課題について、以下のようにまとめました。
 A. 食品リサイクルループの周囲からの認知度が低い
 B. 廃棄処分する際より手間がかかる
 C. 農産物の安定的供給
 D. コストがかかる

※「農林水産省・環境省とのやり取りが多く、認定されるまで時間がかかる」や「申請する際の提出書類が多い」などの課題も多く挙げられていましたが、行政の手続き上の課題であり、事業者として改善方法が考えられないため、今回は課題から除外しました。

上記の課題について解決に向けた改善策（促進要因）を前回のアンケート等から考えました。その改善策（促進要因）の実施可能性と改善可能性についてこれからお伺いします。

制度のさらなる充実や課題解決に向けた改善策（促進要因）に対する貴事業者としての**実施可能性**についてお伺いします。

それぞれの課題に対する**改善策（促進要因）**について、貴事業所では**実施可能**であるか、下記の回答例をご参考に選択肢1～6からお選びください。選択肢は、1. 実施することは難しい、2. 実施することはやや難しい、3. 準備すれば実施可能、4. すぐに実施可能、の4段階の評価です。なお、すでに実施している場合は「5」を、わからない場合は「6」を選択ください。回答は、一般的にはなく、貴事業所では実施可能であるかによって選択ください。また、可能でしたら各回答の選択理由や、すでに実施済みの場合はどのような方法であったのか、どれくらいの効果があったのかなどについて、補足欄にご記入いただければ助かります。

回答例

A. 食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（市民からの認知度）

改善策（促進要因）	実施は難しい ⇄ 実施可能				既に実施済	わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4			
1 施設見学・取材対応を積極的に受け付ける					○		施設見学の際に食品リサイクルループについて説明することができ認知度を上げることが出来た。
2 SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を使用して再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）について発信する				○			当社でも公式のTwitterが存在するので、それを利用して情報発信していくことは可能。
3 一般市民を集めて講演会を開催し、再生利用事業計画認定制度（制度のメリットや意義等）について説明する機会を設ける		○					再生利用事業計画認定制度のPRのためだけに講演会を開催することは難しい。

課題A：食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（市民からの認知度）

改善策（促進要因）	実施は難しい ⇄ 実施可能				既に実施済	わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4			
1 施設見学・取材対応を積極的に受け付ける							
2 SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を使用して再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）について発信する							
3 一般市民を集めて講演会を開催し、再生利用事業計画認定制度（制度のメリットや意義等）について説明する機会を設ける							

課題A：食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者からの認知度）

改善策（促進要因）	実施は難しい ⇄ 実施可能				既に実施済	わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4			
4 SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を使用して再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）について発信する							
5 食品関連事業者に向けて、環境省や農林水産省から情報提供を行う							
6 事業者を集めて講演会を開催し、再生利用事業計画認定制度（制度のメリットや意義等）について説明する機会を設ける							

課題B：廃棄処分する際より手間がかかる

改善策（促進要因）	実施は難しい ⇄ 実施可能				既に実施済	わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4			
7 分別等にかかる人員を増やして取り組む							

課題C：農産物が安定して供給されない

改善策（促進要因）	実施は難しい ⇄ 実施可能				既に実施済	わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4			
8 生産者を増やす							
9 年間予定表を作成し、計画的な策付けを生産者にお願する							

10	前年の納入や取組等について反省する機会をつくる									
11	SNS (FacebookやTwitter等)、ブログ、メディア (新聞や地元誌、ラジオなど) への情報提供を行い、農業者に再生利用製品の生産について知ってもらい制度に参加してもらう									
12	農業者を集めて講演会を開催し、プレゼンを行う。その際に食品リサイクルループの参加者を募る。									
13	農作物の販売元と購入先のニーズを繋ぐマッチングシステムを構築したり、マッチングフェアを開催する									
14	農業者への営業活動 (価格交渉等) に力を入れる									
15	既にループを形成している農業者に知り合いの農業者を紹介してもらい協力をお願いする									

課題D: コストがかかる

改善策 (促進要因)	実施は難しい ⇄ 実施可能				既に実施済	わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4	5	6	
16 賛助会員を募集する							
17 広報チラシ・ポスター・HPを通じて寄付金を募る							
18 従業員への教育 (分別方法等) を徹底し、無駄なコストをなくす							

制度のさらなる充実や課題解決に向けた改善策 (促進要因) に対する貴事業者としての改善可能性についてお伺いします。

それぞれの課題に対する改善策 (促進要因) について、貴事業所では改善可能であるか、下記の回答例をご参考に選択肢1~5からお選びください。
 選択肢は、1. 全く改善できない、2. あまり改善できない、3. やや改善可能、4. 大いに改善可能、の4段階の評価です。
 なお、既に実施されている場合は実施した上でどれほど改善できたのか、当てはまるものに二重丸 (◎) をご記入ください。
 また、わからない場合は「5」を選択してください。
 回答は、一般的にはなく、貴事業所では実施可能であるかによって選択ください。
 また、可能でしたら各回答の選択理由や、すでに実施済みの場合はどのような方法であったのか、どれくらい効果があったのかなどについて、補足欄にご記入いただければ助かります。

回答例

A. 食品リサイクルループの周りからの認知度が低い (市民からの認知度)

改善策 (促進要因)	改善は難しい ⇄ 改善可能				わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4	5	
1 施設見学・取材対応を積極的に受け付ける			◎			施設見学を受け付けるだけでは多くの人に食品リサイクルループについて広めることはできないので認知度を上げることはできないと思う。
2 SNS (FacebookやTwitter等)、ブログ、メディア (新聞や地元誌、ラジオなど) を使用して再生利用事業計画認定制度 (食品リサイクルループ) について発信する			○			市民の目に触れる機会が多くあれば食品リサイクルループの認知度を高くすることはできると思う。
3 一般市民を集めて講演会を開催し、再生利用事業計画認定制度 (制度のメリットや意義等) について説明する機会を設ける				○		興味を持っていく人に対してPRすることは認知度を上げることに繋がると思う。

課題A: 食品リサイクルループの周りからの認知度が低い (市民からの認知度)

改善策 (促進要因)	改善は難しい ⇄ 改善可能				わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4	5	
1 施設見学・取材対応を積極的に受け付ける						
2 SNS (FacebookやTwitter等)、ブログ、メディア (新聞や地元誌、ラジオなど) を使用して再生利用事業計画認定制度 (食品リサイクルループ) について発信する						
3 一般市民を集めて講演会を開催し、再生利用事業計画認定制度 (制度のメリットや意義等) について説明する機会を設ける						

課題A：食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者からの認知度）

改善策（促進要因案）		改善は難しい ⇄ 改善可能					わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
		1	2	3	4	5		
4	SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を使用して再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）について発信する							
5	食品関連事業者に向けて、環境省や農林水産省から情報提供を行う							
6	事業者を集めて講演会等を開催し、再生利用事業計画認定制度（制度のメリットや意義等）について説明する機会を設ける							

課題B：廃棄処分する際より手間がかかる

改善策（促進要因案）		改善は難しい ⇄ 改善可能					わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
		1	2	3	4	5		
7	分別等にかかる人員を増やして取り組む							

課題C：農産物が安定して供給されない

改善策（促進要因案）		改善は難しい ⇄ 改善可能					わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
		1	2	3	4	5		
8	生産者を増やす							
9	年間予定表を作成し、計画的な策付けを生産者にお願する							
10	前年の納入や取組等について反省する機会をつくる							
11	SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）への情報提供を行い、農業者に再生利用製品の生産について知ってもらい制度に参加してもらう							
12	農業者を集めて講演会を開催し、プレゼンを行う。その際に食品リサイクルループの参加者を募る。							
13	農作物の販売元と購入先のニーズを繋ぐマッチングシステムを構築したり、マッチングフェアを開催する							
14	農業者への営業活動（価格交渉等）に力を入れる							
15	既にループを形成している農業者に知り合いの農業者を紹介してもらい協力をお願いする							

課題D：コストがかかる

改善策（促進要因案）		改善は難しい ⇄ 改善可能					わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
		1	2	3	4	5		
16	賛助会員を募集する							
17	広報チラシ・ポスター・HPを通じて寄付金を募る							
18	従業員への教育（分別方法等）を徹底し、無駄なコストをなくす							

本研究において項目により事業者名を載せていただく場合があります。今回のアンケートにおいて事業者名を掲載することに問題はありますか。当てはまる項目に色を付けてください。

- 1 問題がある（統計的に処理させていただきますので、皆様にご迷惑をおかけすることは決してございません）
2 問題はない

この調査に関してのご感想、ご意見等、何かございましたら、以下にご記入いただければ幸いです

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

付録 11 改善策の実施可能性と改善可能性に関するアンケート調査票（リサイクル業者様）

これまでのアンケートの結果より、リサイクル業者様が再生利用事業計画認定制度に取り組む上での課題について、以下のようにまとめました。
 A. 再生利用製品の販売先確保が難しい
 B. 食品リサイクルループの周りからの認知度が低い
 C. 再生利用製品に対する付加価値の構築

※「農林水産省・環境省とのやり取りが多く、認定されるまで時間がかかる」や「申請する際の提出書類が多い」などの課題も多く挙げられていましたが、行政の手続き上の課題であり、事業者として改善方法が考えられないため、今回は課題から除外しました。

上記の課題について解決に向けた改善策（促進要因）を前回のアンケート等から考えました。
 その改善策（促進要因）の**実施可能性**と**改善可能性**についてこれからお伺いします。

制度のさらなる充実や課題解決に向けた改善策（促進要因）に対する貴事業者としての**実施可能性**についてお伺いします。
 それぞれの課題に対する**改善策（促進要因）**について、貴事業所では**実施可能**であるか、下記の回答例をご参考に選択肢1～6からお選びください。
 選択肢は、1. 実施することは難しい、2. 実施することはやや難しい、3. 準備すれば実施可能、4. すぐに実施可能、の4段階の評価です。
 なお、すでに実施している場合は「5」を、わからない場合は「6」を選択ください。
 回答は、一般的には、貴事業所では**実施可能**であるかによって選択ください。
 また、可能でしたら各回答の選択理由や、すでに実施済みの場合ほどのような方法であったのか、どれくらいの効果があったのかなどについて、補足欄にご記入いただければ助かります。

回答例

課題A：再生利用製品の販売先確保が難しい

改善策（促進要因）	実施は難しい		実施可能		既に実施済	わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4	5	6	
1 農業者への営業活動（価格交渉など）に力を入れる					○		新規に販売ルートを1件確保することができた。
2 利用先の農業者にメディアで紹介してもらう	○						メディアでの紹介にはお金がかかり難しいと思う。
3 興味を持ってくれた農業者にサンプルを無償提供し、食品リサイクルループへ取り組むきっかけにしよう			○				サンプル提供によって再生利用製品の良さを知ってもらえきっかけになると思うがその分コストがかかるのでどちらともいえない。

課題A：再生利用製品の販売先確保が難しい

改善策（促進要因）	実施は難しい		実施可能		既に実施済	わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4	5	6	
1 SNS (FacebookやTwitter等)、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）への情報提供を行い、農業者に制度の概要・メリット、再生利用製品の特徴について知ってもらう							
2 農業者を集めて講演会を開催し、制度の概要・メリット、再生利用製品の特徴などについてプレゼンを行う							
3 再生利用製品の販売元と購入先のニーズを繋ぐマッチングシステムを構築したり、マッチングフェアを開催する							
4 農業者への営業活動（価格交渉等）に力を入れる							
5 (商社を経由して肥料の販売を行っている場合) 商社に農業者を紹介してもらい協力をお願いする							
6 既にループを形成している農業者に知り合いの農業者を紹介してもらい協力をお願いする							
7 ブランド展開することによって再生利用製品を利用するということに価値を持たせる							
8 興味を持ってくれた農業者にサンプルを無償提供し、食品リサイクルループへ取り組むきっかけにしよう							
9 リサイクルループという“物語性”を農業者にアピールする							

課題B：食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（市民からの認知度）

改善策（促進要因）	実施は難しい		実施可能		既に実施済	わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4	5	6	
10 施設見学・取材対応を積極的に受け付ける							
11 SNS (FacebookやTwitter等)、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を使用して再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）について発信する							
12 一般市民を集めて講演会を開催し、再生利用事業計画認定制度（制度のメリットや意義等）について説明する機会を設ける							

課題B：食品リサイクルの周知からの認知度が低い（**事業者からの認知度**）

改善策（促進要因案）	実施は難しい		⇔		実施可能		既に実施済	わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4	5	6			
13 SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を使用して再生利用事業計画認定制度（食品リサイクル）について発信する									
14 再生利用製品の生産を行っているリサイクル業者に向けて、環境省や農林水産省から情報提供を行う									
15 事業者を集めて講演会等を開催し、再生利用事業計画認定制度（制度のメリットや意義等）について説明する機会を設ける									

課題C：再生利用製品に対する付加価値の構築

改善策（促進要因案）	実施は難しい		⇔		実施可能		既に実施済	わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4	5	6			
16 再生利用製品を利用した生産した農作物の特徴等を説明する機会を設ける									
17 再生利用製品を利用することによる栄養素以外の評価項目の研究を行う									
18 リサイクルという「物語性」を押し出して消費者への訴求に努める									
19 ブランド展開することによって再生利用製品を利用するということに価値を持たせる									

制度のさらなる充実や課題解決に向けた改善策（促進要因案）に対する貴事業者としての**改善可能性**についてお伺いします。

それぞれの課題に対する**改善策（促進要因案）**について、貴事業所では**改善可能**であるか、下記の回答例をご参考に選択肢1～5からお選びください。
 選択肢は、1. 全く改善できない、2. あまり改善できない、3. やや改善可能、4. 大いに改善可能、の4段階の評価です。
 なお、既に実施されている場合は実施した上でどれほど改善できたのか、当てはまるものに二重丸（◎）をご記入ください。
 また、わからない場合は「6」を選択してください。
 回答は、一般的にはなく、貴事業所では実施可能であるかによって選択してください。
 また、可能でしたら各回答の選択理由や、すでに実施済みの場合はどのような方法であったのか、どれくらいの効果があったのかなどについて、補足欄にご記入いただければ助かります。

回答例

課題A：再生利用製品の販売先確保が難しい

改善策（促進要因案）	改善は難しい		⇔		改善可能		わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4	5			
1 農業者への営業活動（価格交渉など）に力を入れる					◎			新規に販売ルートを1件確保することができた。
2 利用先の農業者にメディアで紹介してもらう			○					実際に使用している農業者からメディアを通してPRしてもらえれば大いに効果は見られると思う。
3 興味を持った農業者にサンプルを無償提供する			○					サンプル提供によって再生利用製品の良さを知ってもらいきっかけになると思うがその分コストがかかる。

課題A：再生利用製品の販売先確保が難しい

改善策（促進要因案）	改善は難しい		⇔		改善可能		わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4	5			
1 SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）への情報提供を行い、農業者に制度の概要・メリット、再生利用製品の特徴について知ってもらう								
2 農業者を集めて講演会を開催し、制度の概要・メリット、再生利用製品の特徴などについてプレゼンを行う								
3 再生利用製品の販売元と購入先のニーズを繋ぐマッチングシステムを構築したり、マッチングフェアを開催する								
4 農業者への営業活動（価格交渉等）に力を入れる								
5（商社を経由して肥料の販売を行っている場合）商社に農業者を紹介してもらい協力を願います								
6 既にループを形成している農業者に知り合いの農業者を紹介してもらい協力をお願いする								
7 ブランド展開することによって再生利用製品を利用するということに価値を持たせる								

8	興味を持ってくれた農業者にサンプルを無償提供し、食品リサイクルループへ組みむきつけにしてみよう						
9	リサイクルループという“物語性”を農業者にアピールする						

課題B：食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（市民からの認知度）

改善策（促進要因案）	改善は難しい ⇄ 改善可能					具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4	わからない	
10	施設見学・取材対応を積極的に受け付ける					
11	SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を使用して再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）について発信する					
12	一般市民を集めて講演会を開催し、再生利用事業計画認定制度（制度のメリットや意義等）について説明する機会を設ける					

課題B：食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者からの認知度）

改善策（促進要因案）	改善は難しい ⇄ 改善可能					具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4	わからない	
13	SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を使用して再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）について発信する					
14	再生利用製品の生産を行っているリサイクル業者に向けて、環境省や農林水産省から情報提供を行う					
15	事業者を集めて講演会等を開催し、再生利用事業計画認定制度（制度のメリットや意義等）について説明する機会を設ける					

課題C：再生利用製品に対する付加価値の構築

改善策（促進要因案）	改善は難しい ⇄ 改善可能					具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4	わからない	
16	再生利用製品を利用し生産した農作物の特徴等を説明する機会を設ける					
17	再生利用製品を利用することによる栄養素以外の評価項目の研究を行う					
18	リサイクルループという“物語性”を押し出して消費者への訴求に努める					
19	ブランド展開することによって再生利用製品を利用するという価値を持たせる					

本研究において項目により事業者名を載せさせていただく場合があります。今回のアンケートにおいて事業所名を掲載することに問題はありませんか。当てはまる項目に色を付けてください。

1	問題がある（統計的に処理させていただきますので、皆様にご迷惑をおかけすることは決してございません）
2	問題はない

この調査に関してのご感想、ご意見等、何かございましたら、以下にご記入いただければ幸いです

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

付録12 改善策の実施可能性と改善可能性に関するアンケート調査票（農業者）

これまでのアンケートの結果より、再生利用事業計画認定制度に取り組む上での課題について、以下のようにまとめました。

A. 食品リサイクルループの周囲からの認知度が低い
 B. 生産した農作物に対する付加価値の構築
 C. 制度の取り組む人員の確保
 D. 肥料の安定した確保
 E. 生産した農作物の販売先確保
 H. 参加事業者の増加

※「農林水産省・環境省とのやり取りが多く、認定されるまで時間がかかる」や「申請する際の提出書類が多い」などの課題も多く挙げられていましたが、行政の手続き上の課題であり、事業者として改善方法が考えられないため、今回は課題から除外しました。

上記の課題について解決に向けた改善策（促進要因案）を前回のアンケート等から考えました。その改善策（促進要因案）の**実施可能性**と**改善可能性**についてこれからお伺いします。

制度のさらなる充実や課題解決に向けた改善策（促進要因案）に対する貴事業者としての**実施可能性**についてお伺いします。それぞれの課題に対する**改善策（促進要因案）**について、貴事業所では**実施可能**であるか、下記の回答例をご参考に選択肢1～6からお選びください。選択肢は、1. 実施することは難しい、2. 実施することはやや難しい、3. 準備すれば実施可能、4. すぐに実施可能、の4段階の評価です。なお、すでに実施している場合は「5」を、わからない場合は「6」を選択ください。回答は、一般的ではなく、貴事業所では実施可能であるかによって選択ください。また、可能でしたら各回答の選択理由や、すでに実施済みの場合ほどのような方法であったのか、どれくらいの効果があったのかなどについて、補足欄にご記入いただければ助かります。

回答例

A. 食品リサイクルループの周囲からの認知度が低い（**市民**からの認知度）

改善策（促進要因案）	実施は難しい ⇄ 実施可能				既に実施済	わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4	5	6	
1 施設見学・取材対応を積極的に受け付ける				○			HPや広報誌を利用してさらに施設見学等を受け入れていく
2 SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を使用して再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）について発信する					○		Twitterを使用して再生利用事業計画認定制度の取り組みについて発信している。
3 一般市民を集めて講演会を開催し、再生利用事業計画認定制度（制度のメリットや意義等）について説明する機会を設ける		○					一事業者だけの意見では開催は難しいと思う。

課題A：食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（**市民**からの認知度）

改善策（促進要因案）	実施は難しい ⇄ 実施可能				既に実施済	わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4	5	6	
1 施設見学・取材対応を積極的に受け付ける							
2 SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を使用して再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）について発信する							
3 一般市民を集めて講演会を開催し、再生利用事業計画認定制度（制度のメリットや意義等）について説明する機会を設ける							

課題A：食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（**事業者**からの認知度）

改善策（促進要因案）	実施は難しい ⇄ 実施可能				既に実施済	わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4	5	6	
4 SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を使用して再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）について発信する							
5 再生利用製品の生産を行っているリサイクル業者に向けて、環境省や農林水産省から情報提供を行う							
6 事業者を集めて講演会等を開催し、再生利用事業計画認定制度（制度のメリットや意義等）について説明する機会を設ける							

課題B：
再生利用製品に対する付加価値の構築

改善策（促進要因案）	実施は難しい ⇄ 実施可能				既に実施済	わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
	1	2	3	4	5	6	
7 再生利用製品を利用した農作物の特徴等を説明する機会を設ける							
8 再生利用製品を利用することによる栄養素以外の評価項目の研究を行う							
9 リサイクルループという“物語性”を押し出して消費者への訴求に努める							
10 ブランド展開することによって再生利用製品を利用することに価値を持たせる							

課題C：制度に取り組む人員の確保		実施は 難しい ⇄ 実施 可能				既に 実施 済	わから ない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
改善策（促進要因案）		1	2	3	4	5	6	
11	HPでアルバイトを募集する							
12	HPでボランティアを募集する							
13	SNS（FacebookやTwitter等）やメディア（新聞や地元誌、ラジオなど）でアルバイトを募集する							
14	SNS（FacebookやTwitter等）やメディア（新聞や地元誌、ラジオなど）でボランティアを募集する							

課題D：肥料の安定した供給確保

課題D：肥料の安定した供給確保		実施は 難しい ⇄ 実施 可能				既に 実施 済	わから ない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
改善策（促進要因案）		1	2	3	4	5	6	
15	HP、SNS（FacebookやTwitter等）やメディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を利用してよびかけて、購入先を確保する							
16	リサイクル業者、農業者で集まりの機会をつくる							
17	リサイクル業者への働きかけを積極的に実施する							
18	再生利用製品の販売元と購入先のニーズを繋ぐマッチングシステムを構築したり、マッチングフェアを開催する							
19	ほかの食品リサイクルループと連携を図る							
20	前年の納入や取組等について反省する機会をつくる							

課題E：生産した農作物の販売先確保

課題E：生産した農作物の販売先確保		実施は 難しい ⇄ 実施 可能				既に 実施 済	わから ない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
改善策（促進要因案）		1	2	3	4	5	6	
21	SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）への情報提供を行い、食品関連事業者に再生利用製品を用いて生産した農作物について知ってもらおう							
22	食品関連事業者を集めて講演会を開催し、プレゼンを行う							
23	農作物の販売元と購入先のニーズを繋ぐマッチングシステムを構築したり、マッチングフェアを開催する							
24	食品関連事業者への営業活動（価格交渉等）に力を入れる							
25	既にループを形成している食品関連事業者に知り合いの農業者を紹介してもらい協力をお願いする							
26	ブランド展開することによって再生利用製品を用いて生産された農作物を利用するということに価値を持たせる							

課題F：参加事業者の増加

課題F：参加事業者の増加		実施は 難しい ⇄ 実施 可能				既に 実施 済	わから ない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
改善策（促進要因案）		1	2	3	4	5	6	
27	取引先の食品関連事業者に、食品リサイクルループへの参加を勧誘する							
28	知り合いの農業者に制度のメリットや再生利用製品の特長についてアピールし制度へ勧誘する							

制度のさらなる充実や課題解決に向けた改善策（促進要因）に対する貴事業者としての**改善可能性**についてお伺いします。

それぞれの課題に対する改善策（促進要因）について、貴事業所では**改善可能**であるか、下記の回答例をご参考に選択肢1～5からお選びください。

選択肢は、1. 全く改善できない、2. あまり改善できない、3. やや改善可能、4. 大いに改善可能、の4段階の評価です。
なお、既に実施されている場合は実施した上でどれほど改善できたのか、当てはまるものに二重丸（◎）をご記入ください。

また、わからない場合は「5」を選択してください。

回答は、一般的にではなく、貴事業所では実施可能であるかによって選択ください。

また、可能でしたら各回答の選択理由や、すでに実施済みの場合はどのような方法であったのか、どれくらいの効果があったのかなどについて、補足欄にご記入いただければ助かります。

回答例

A. 食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（市民からの認知度）

改善策（促進要因案）		改善は難しい ⇄ 改善可能					わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
		1	2	3	4	5		
1	施設見学・取材対応を積極的に受け付ける			○				施設見学を受け付けるだけでは多くの人に食品リサイクルループについて広めることはできないので認知度を上げることはできないと思う。
2	SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を使用して再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）について発信する				◎			積極的に発信していることによって、食品リサイクルループの認知度が上がっていると感じられる
3	一般市民を集めて講演会を開催し、再生利用事業計画認定制度（制度のメリットや意義等）について説明する機会を設ける					○		市民を集め講演会を開催することが出来れば、認知度の向上に大いにつながると思う。

課題A：食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（市民からの認知度）

改善策（促進要因案）		改善は難しい ⇄ 改善可能					わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
		1	2	3	4	5		
1	施設見学・取材対応を積極的に受け付ける							
2	SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を使用して再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）について発信する							
3	一般市民を集めて講演会を開催し、再生利用事業計画認定制度（制度のメリットや意義等）について説明する機会を設ける							

課題A：食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者からの認知度）

改善策（促進要因案）		改善は難しい ⇄ 改善可能					わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
		1	2	3	4	5		
4	SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を使用して再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）について発信する							
5	再生利用製品の生産を行っているリサイクル業者に向けて、環境省や農林水産省から情報提供を行う							
6	事業者を集めて講演会等を開催し、再生利用事業計画認定制度（制度のメリットや意義等）について説明する機会を設ける							

課題B：再生利用製品に対する付加価値の構築

改善策（促進要因案）		改善は難しい ⇄ 改善可能					わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
		1	2	3	4	5		
7	再生利用製品を利用し生産した農作物の特徴等を説明する機会を設ける							
8	再生利用製品を利用することによる栄養素以外の評価項目の研究を行う							
9	リサイクルループという“物語性”を押し出して消費者への訴求に努める							
10	ブランド展開することによって再生利用製品を利用することに価値を持たせる							

課題C：制度に取り組む人員の確保		改善は難しい ⇄ 改善可能					わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
改善策（促進要因案）		1	2	3	4	5		
11	HPでアルバイトを募集する							
12	HPでボランティアを募集する							
13	SNS（FacebookやTwitter等）やメディア（新聞や地元誌、ラジオなど）でアルバイトを募集する							
14	SNS（FacebookやTwitter等）やメディア（新聞や地元誌、ラジオなど）でボランティアを募集する							

課題D：肥料の安定した供給確保		改善は難しい ⇄ 改善可能					わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
改善策（促進要因案）		1	2	3	4	5		
15	HP、SNS（FacebookやTwitter等）やメディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を利用してよびかけて、購入先を確保する							
16	リサイクル業者、農業者で集まりの機会をつくる							
17	リサイクル業者への働きかけを積極的に実施する							
18	再生利用製品の販売元と購入先のニーズを繋ぐマッチングシステムを構築したり、マッチングフェアを開催する							
19	ほかの食品リサイクルと連携を図る							
20	前年の納入や取組等について反省する機会をつくる							

課題E：生産した農作物の販売先確保		改善は難しい ⇄ 改善可能					わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
改善策（促進要因案）		1	2	3	4	5		
21	SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）への情報提供を行い、食品関連事業者に再生利用製品を用いて生産した農作物について知ってもらう							
22	食品関連事業者を集めて講演会を開催し、プレゼンを行う							
23	農作物の販売元と購入先のニーズを繋ぐマッチングシステムを構築したり、マッチングフェアを開催する							
24	食品関連事業者への営業活動（価格交渉等）に力を入れる							
25	既にループを形成している食品関連事業者に知り合いの農業者を紹介してもらい協力をお願いする							
26	ブランド展開することによって再生利用製品を用いて生産された農作物を利用するということに価値を持たせる							

課題F：参加事業者の増加		改善は難しい ⇄ 改善可能					わからない	具体的な方法や補足 実施済みの場合はどれくらい効果があったのか、など
改善策（促進要因案）		1	2	3	4	5		
27	取引先の食品関連事業者に、食品リサイクルループへの参加を勧誘する							
28	知り合いの農業者に制度のメリットや再生利用製品の特長についてアピールし制度へ勧誘する							

本研究において項目により事業者名を載せていただく場合があります。今回のアンケートにおいて事業所名を掲載することに問題はありません。当てはまる項目に色を付けてください。	
1	問題がある（統計的に処理させていただきますので、皆様にご迷惑をおかけすることは決してございません）
2	問題はない

この調査に関してのご感想、ご意見等、何かございましたら、以下にご記入いただければ幸いです

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

付録 13 改善策未実施事業者による改善策の評価

・改善策未実施事業者による実施可能性・改善可能性からの有効な改善策の提案方法

改善策未実施事業者の回答について、「実施可能性の平均得点が 2.5 点以上」かつ、「改善可能性の平均得点が 2.5 点以上」の改善策のうち、「実施可能性の標準偏差が 1.25 未満」かつ「改善可能性の標準偏差が 1.25 未満」の改善策を、「予想に基づく有効な改善策」とする。また、「実施可能性の平均得点が 2.5 点以上」かつ、「改善可能性の平均得点が 2.5 点以上」の改善策のうち、「実施可能性の標準偏差が 1.25 以上」か「改善可能性の標準偏差が 1.25 以上」の改善策を、「予想に基づくやや有効な改善策」とする。

これらの改善策について、有効性が高いものは上から順に、「予想に基づく有効な改善策」>「予想に基づくやや有効な改善策」とする。

・改善策未実施事業者による実施可能性

本文 6-6-1 に示す。

・改善策未実施事業者による改善可能性

改善策未実施事業者による改善可能性の高い改善策と、改善可能性の低い改善策をまとめる。

まずは、改善策未実施の食品関連事業者の改善可能性の高い改善策、低い改善策をまとめる。改善可能性の高い改善策は 3 個で全体の 16.7%であり、改善可能性の低い改善策は 15 個で全体の 83.3%であった。

表 1 改善可能性の高い改善策（改善策未実施の食品関連事業者）

課題	改善策	改善可能性					合計 (事業者数)	合計 (点)	平均 (点)
		全く改善 できない (*1)	あまり 改善で きない (*2)	やや改善 できる (*3)	大いに 改善で きる (*4)	わから ない			
ループの周りからの認知度が低い(事業者)	食品関連事業者に向けて、環境省や農林水産省から情報提供を行う	0	3	2	1	2	6	16	2.67
農産物が安定して供給されない	年間予定表を作成し、計画的な策付けを生産者をお願いする	1	4	1	2	1	8	20	2.50
	前年の納入や取組等について反省する機会をつくる	1	3	0	3	1	7	19	2.71

表2 改善可能性の低い改善策（改善策未実施の食品関連事業者）

課題	改善策	改善可能性					合計 (事業者数)	合計 (点)	平均 (点)
		全く改善 できない (*1)	あまり 改善で きない (*2)	やや改善 できる (*3)	大いに 改善で きる (*4)	わから ない			
食品リサイクルループの周 りからの認知度が低い (市民)	施設見学・取材対応を積極的に受け付ける	2	4	1	0	0	7	13	1.86
	SNS (FacebookやTwitter等)、ブログ、メディア (新聞や地元誌、ラジオなど) を使用して再生利用事業計画認定制度 (食品リサイクルループ) について発信する	0	4	2	0	1	6	14	2.33
	一般市民を集めて講演会を開催し、再生利用事業計画認定制度 (制度のメリットや意義等) について説明する機会を設ける	3	4	1	2	0	10	22	2.20
食品リサイクル ループの周りから の認知度が低い (事業者)	SNS (FacebookやTwitter等)、ブログ、メディア (新聞や地元誌、ラジオなど) を使用して再生利用事業計画認定制度 (食品リサイクルループ) について発信する	1	4	1	0	1	6	12	2.00
	事業者を集めて講演会等を開催し、再生利用事業計画認定制度 (制度のメリットや意義等) について説明する機会を設ける	2	4	1	2	0	9	21	2.33
廃棄処分する際より 手間がかかる	分別等にかかる人員を増やして取り組む	4	1	1	0	0	6	9	1.50
農産物が安定して 供給されない	生産者を増やす	2	4	1	2	0	9	21	2.33
	SNS (FacebookやTwitter等)、ブログ、メディア (新聞や地元誌、ラジオなど) への情報提供を行い、農業者に再生利用製品の生産について知ってもらい制度に参加してもらう	1	4	1	0	1	6	12	2.00
	農業者を集めて講演会を開催し、プレゼンを行う。その際に食品リサイクルループの参加者を募る。	1	4	0	2	1	7	17	2.43
	農作物の販売元と購入先のニーズを繋ぐマッチングシステムを構築したり、マッチングフェアを開催する	2	5	0	2	0	9	20	2.22
	農業者への営業活動 (価格交渉等) に力を入れる	2	5	1	0	1	8	15	1.88
	既にループを形成している農業者に知り合いの農業者を紹介してもらい協力をお願いする	1	6	0	2	0	9	21	2.33
コストがかかる	賛助会員を募集する	8	2	0	0	0	10	12	1.20
	広報チラシ・ポスター・HPを通じて寄付金を募る	8	2	0	0	0	10	12	1.20
	従業員への教育 (分別方法等) を徹底し、無駄なコストをなくす	0	5	2	0	0	7	16	2.29

次に、改善策未実施のリサイクル業者の改善可能性の高い改善策、低い改善策をまとめる。改善可能性の高い改善策は13個で全体の68.4%であり、改善可能性の低い改善策は6個で全体の31.6%であった。

表3 改善可能性の高い改善策（改善策未実施のリサイクル業者）

課題	改善策	改善可能性					合計 (事業者数)	合計 (点)	平均 (点)
		全く改善 できない (*1)	あまり 改善で きない (*2)	やや改善 できる (*3)	大いに 改善で きる (*4)	わから ない			
再生利用製品の販売先 確保が難しい	SNS (FacebookやTwitter等)、ブログ、メディア (新聞や地元誌、ラジオなど) への情報提供を行い、農業者に制度の概要・メリット、再生利用製品の特徴について知ってもらう	0	3	0	2	1	5	14	2.80
	農業者を集めて講演会を開催し、制度の概要・メリット、再生利用製品の特徴などについてプレゼンを行う	1	1	1	1	0	4	10	2.50
	ブランド展開することによって再生利用製品を利用するということに価値を持たせる	1	3	0	2	0	6	15	2.50
	興味を持ってくれた農業者にサンプルを無償提供し、食品リサイクルループへ取り組むきっかけにしよう	0	2	2	0	0	4	10	2.50
	リサイクルループという“物語性”を農業者にアピールする	0	3	1	1	0	5	13	2.60
食品リサイクルループ の周りからの認知度が 低い (市民)	施設見学・取材対応を積極的に受け付ける	0	0	1	2	0	3	11	3.67
	一般市民を集めて講演会を開催し、再生利用事業計画認定制度 (制度のメリットや意義等) について説明する機会を設ける	0	3	1	1	1	5	13	2.60
食品リサイクルループの周 りからの認知度が低い (事業者)	SNS (FacebookやTwitter等)、ブログ、メディア (新聞や地元誌、ラジオなど) を使用して再生利用事業計画認定制度 (食品リサイクルループ) について発信する	0	2	2	0	1	4	10	2.50
	再生利用製品の生産を行っているリサイクル業者に向けて、環境省や農林水産省から情報提供を行う	0	1	3	0	1	4	11	2.75
	事業者を集めて講演会等を開催し、再生利用事業計画認定制度 (制度のメリットや意義等) について説明する機会を設ける	0	2	2	1	1	5	14	2.80
再生利用製品に対する付 加価値の構築	再生利用製品を利用した農作物の特徴等を説明する機会を設ける	0	3	2	1	0	6	16	2.67
	再生利用製品を利用することによる栄養素以外の評価項目の研究を行う	0	2	1	1	2	4	11	2.75
	リサイクルループという“物語性”を押し出して消費者への訴求に努める	0	4	1	1	0	6	15	2.50

表 4 改善可能性の低い改善策（改善策未実施のリサイクル業者）

課題	改善策	改善可能性					合計 (事業者数)	合計 (点)	平均 (点)
		全く改善 できない (*1)	あまり改 善できな い (*2)	やや改善 できる (*3)	大いに改 善できる (*4)	わから ない			
再生利用製品の販売先 確保が難しい	再生利用製品の販売元と購入先のニーズを繋ぐマッチングシステムを構築したり、マッチングフェアを開催する	1	2	1	1	1	5	12	2.40
	農業者への営業活動(価格交渉等)に力を入れる	2	2	1	0	0	5	9	1.80
	(商社を経由して肥料の販売を行っている場合) 商社に農業者を紹介してもらい協力を願う	2	1	1	0	0	4	7	1.75
	既にループを形成している農業者に知り合いの農業者を紹介してもらい協力を願う	2	2	2	0	0	6	12	2.00
食品リサイクルループの周りからの認知度が低い(市民)	SNS(FacebookやTwitter等)、ブログ、メディア(新聞や地元誌、ラジオなど)を使用して再生利用事業計画認定制度(食品リサイクルループ)について発信する	0	3	1	0	1	4	9	2.25
再生利用製品に対する付加価値の構築	ブランド展開することによって再生利用製品を利用するということに価値を持たせる	0	4	1	0	0	5	11	2.20

最後に、改善策未実施の農業者の改善可能性の高い改善策、低い改善策をまとめる。改善可能性の高い改善策は4個で全体の14.3%であり、改善可能性の低い改善策は24個で全体の85.7%であった。

表 5 改善可能性の高い改善策（改善策未実施の農業者）

課題	改善策	改善可能性					合計 (事業者数)	合計 (点)	平均 (点)
		全く改善 できない (*1)	あまり改 善できな い (*2)	やや改善 できる (*3)	大いに改 善できる (*4)	わから ない			
食品リサイクルループの周りからの認知度が低い(市民)	施設見学・取材対応を積極的に受け付ける	2	4	1	3	1	10	25	2.50
生産した農作物に対する付加価値の構築	リサイクルループという“物語性”を押し出して消費者への訴求に努める	1	4	2	2	1	9	23	2.56
肥料の安定した確保	リサイクル業者、農業者で集まりの機会をつくる	0	5	1	2	1	8	21	2.63
生産した農作物の販売先確保	既にループを形成している食品関連事業者に知り合いの農業者を紹介してもらい協力を願う	2	2	3	2	2	9	23	2.56

表 6 改善可能性の低い改善策（改善策未実施の農業者）

課題	改善策	改善可能性					合計 (事業者数)	合計(点)	平均 (点)
		全く改善 できない (*1)	あまり改 善できな い(*2)	やや改善 できる (*3)	大いに改 善できる (*4)	わからな い			
食品リサイクルループの周りからの認知度が低い	SNS(FacebookやTwitter等)、ブログ、メディア(新聞や地元誌、ラジオなど)を使用して再生利用事業計画認定制度(食品リサイクルループ)について発信する	4	2	1	2	1	9	19	2.11
	一般市民を集めて講演会を開催し、再生利用事業計画認定制度(制度のメリットや意義等)について説明する機会を設ける	4	3	1	1	1	9	17	1.89
食品リサイクルループの周りからの認知度が低い(事業者)	SNS(FacebookやTwitter等)、ブログ、メディア(新聞や地元誌、ラジオなど)を使用して再生利用事業計画認定制度(食品リサイクルループ)について発信する	3	3	1	3	1	10	24	2.40
	食品関連事業者に向けて、環境省や農林水産省から情報提供を行う	2	4	1	2	2	9	21	2.33
	事業者を集めて講演会等を開催し、再生利用事業計画認定制度(制度のメリットや意義等)について説明する機会を設ける	2	5	0	2	1	9	20	2.22
	再生利用製品を利用して生産した農作物の特徴等を説明する機会を設ける	2	4	1	1	1	8	17	2.13
生産した農作物に対する付加価値の構築	再生利用製品を利用することによる栄養素以外の評価項目の研究を行う	4	3	1	2	1	10	21	2.10
	ブランド展開することによって再生利用製品を利用するということに価値を持たせる	3	2	3	0	1	8	16	2.00
	HPでアルバイトを募集する	4	4	0	1	1	9	16	1.78
制度の取り組む人員の確保	HPでボランティアを募集する	5	4	0	1	1	10	17	1.70
	SNS(FacebookやTwitter等)やメディア(新聞や地元誌、ラジオなど)でアルバイトを募集する	3	5	0	2	1	10	21	2.10
	SNS(FacebookやTwitter等)やメディア(新聞や地元誌、ラジオなど)でボランティアを募集する	4	5	0	1	1	10	18	1.80
	HP、SNS(FacebookやTwitter等)やメディア(新聞や地元誌、ラジオなど)を利用してよびかけて、購入先を確保する	3	2	2	2	2	9	21	2.33
肥料の安定した確保	リサイクル業者への働きかけを積極的に実施する	2	4	1	2	2	9	21	2.33
	再生利用製品の販売元と購入先のニーズを繋ぐマッチングシステムを構築したり、マッチングフェアを開催する	3	3	1	2	2	9	20	2.22
	ほかの食品リサイクルループと連携を図る	2	4	1	1	2	8	17	2.13
	前年の納入や取組等について反省する機会をつくる	1	4	2	1	1	8	19	2.38
	SNS(FacebookやTwitter等)、ブログ、メディア(新聞や地元誌、ラジオなど)への情報提供を行い、食品関連事業者に再生利用製品を用いて生産した農作物について知ってもらう	3	2	3	0	1	8	16	2.00
生産した農作物の販売先確保	食品関連事業者を集めて講演会を開催し、プレゼンを行う	2	4	1	1	2	8	17	2.13
	農作物の販売元と購入先のニーズを繋ぐマッチングシステムを構築したり、マッチングフェアを開催する	2	4	1	1	1	8	17	2.13
	食品関連事業者への営業活動(価格交渉等)に力を入れる	3	3	1	1	3	8	16	2.00
	ブランド展開することによって再生利用製品を用いて生産された農作物を利用するということに価値を持たせる	3	1	3	0	1	7	14	2.00
	取引先の食品関連事業者に、食品リサイクルループへの参加を勧誘する	2	2	2	1	2	7	16	2.29
参加事業者の増加+NN94	知り合いの農業者に制度のメリットや再生利用製品の特長についてアピールし制度へ勧誘する	2	2	1	2	2	7	17	2.43

・改善策未実施事業者による予想に基づく有効な改善策（食品関連事業者）

(1) 課題「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（市民）」

「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（市民）」に対する予想に基づく有効な改善策は、ない。

(2)課題「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者）」

「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者）」に対する予想に基づく有効な改善策の候補は、「食品関連事業者に向けて、環境省や農林水産省から情報提供を行う」である（表 6-23）。「実施可能性の平均得点が 2.5 点以上」かつ、「改善可能性の平均得点が 2.5 点以上」であり、いずれの標準偏差も 1.25 未満であるため、「予想に基づく有効な改善策」と言える。

表7 「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者）」に対する
 予想に基づく有効な改善策（改善策未実施の食品関連事業者）

課題	改善策	回答 事業者数	実施可能性		改善可能性	
			平均得点	標準偏差	平均得点	標準偏差
食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者）	食品関連事業者に向けて、環境省や農林水産省から情報提供を行う	7	2.86	0.83	2.67	1.20

(3)課題「廃棄処分する際より手間がかかる」

「廃棄処分する際より手間がかかる」に対する予想に基づく有効な改善策は、ない。

(4)課題「農産物が安定して供給されない」

「農作物が安定して供給されない」に対する予想に基づく有効な改善策の候補は、「年間予定表を作成し、計画的な作付けを生産者をお願いする」、「前年の納入や取組等について反省する機会を作る」の2個である（表6-26）。「年間予定表を作成し、計画的な作付けを生産者をお願いする」は、「実施可能性の平均得点が2.5点以上」かつ、「改善可能性の平均得点が2.5点以上」であり、いずれの標準偏差も1.25未満であるため、「予想に基づく有効な改善策」と言える。「前年の納入や取組等について反省する機会を作る」は、「実施可能性の平均得点が2.5点以上」かつ、「改善可能性の平均得点が2.5点以上」であるが、改善可能性の標準偏差が1.25以上であるため、「予想に基づくやや有効な改善策」である。

表8 「農作物が安定して供給されない」に対する予想に基づく有効な改善策の候補
 （改善策未実施の食品関連事業者）

課題	改善策	回答 事業者数	実施可能性		改善可能性	
			平均得点	標準偏差	平均得点	標準偏差
農産物が安定して供給されない	年間予定表を作成し、計画的な策付けを生産者をお願いする	11	2.82	1.03	2.50	1.23
	前年の納入や取組等について反省する機会をつくる	10	3.00	1.00	2.71	1.32

(5)課題「コストがかかる」

「コストがかかる」に対する予想に基づく有効な改善策の候補は、ない。

・改善策未実施事業者による予想に基づく有効な改善策（リサイクル業者）

(1) 課題「再生利用製品の販売先確保が難しい」

「再生利用製品の販売先確保が難しい」に対する予想に基づく有効な改善策の候補は、「SNS（FacebookやTwitter等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）への情報提供を行い、農業者に制度の概要・メリット、再生利用製品の特徴について知ってもらう」、「ブランド展開することによって再生利用製品を利用するということに価値を持たせる」、

「興味を持ってくれた農業者にサンプルを無償提供し、食品リサイクルループへ取り組むきっかけにしてもらう」の3個である。いずれも、「実施可能性の平均得点が2.5点以上」かつ、「改善可能性の平均得点が2.5点以上」であり、いずれの標準偏差も1.25未満であるため、「予想に基づく有効な改善策」と言える。

表9 「再生利用製品の販売先確保が難しい」に対する予想に基づく有効な改善策の候補（改善策未実施のリサイクル業者）

課題	改善策	回答事業者数	実施可能性		改善可能性	
			平均得点	標準偏差	平均得点	標準偏差
再生利用製品の販売先確保が難しい	SNS (FacebookやTwitter等), ブログ, メディア (新聞や地元誌, ラジオなど) への情報提供を行い, 農業者に制度の概要・メリット, 再生利用製品の特徴について知ってもらう	7	2.86	1.12	2.80	0.98
	ブランド展開することによって再生利用製品を利用するということに価値を持たせる	7	2.57	1.05	2.50	1.12
	興味を持ってくれた農業者にサンプルを無償提供し, 食品リサイクルループへ取り組むきっかけにしてもらう	6	2.67	0.94	2.50	0.50

(2) 課題「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（市民）」

「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い(市民)」に対する予想に基づく有効な改善策の候補は、「施設見学・取材対応を積極的に受け付ける」である。「実施可能性の平均得点が2.5点以上」かつ、「改善可能性の平均得点が2.5点以上」であり、いずれの標準偏差も1.25未満であるため、「予想に基づく有効な改善策」と言える。

表10 「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い(市民)」に対する予想に基づく有効な改善策の候補（改善策未実施のリサイクル業者）

課題	改善策	回答事業者数	実施可能性		改善可能性	
			平均得点	標準偏差	平均得点	標準偏差
食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（市民）	施設見学・取材対応を積極的に受け付ける	3	4.00	0.00	3.67	0.47

(3) 課題「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者）」

「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者）」に対する予想に基づく有効な改善策の候補は、「SNS (Facebook や Twitter 等), ブログ, メディア (新聞や地元誌, ラジオなど) を使用して再生利用事業計画認定制度 (食品リサイクルループ) について発信する」である。「実施可能性の平均得点が2.5点以上」かつ、「改善可能性の平均得点が2.5点以上」であり、いずれの標準偏差も1.25未満であるため、「予想に基づく有効な改善策」と言える。

表 11 「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者）」に対する
 予想に基づく有効な改善策の候補（改善策未実施のリサイクル業者）

課題	改善策	回答 事業者 数	実施可能性		改善可能性	
			平均得点	標準偏差	平均得点	標準偏差
食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者）	SNS(FacebookやTwitter等), ブログ, メディア(新聞や地元誌, ラジオなど)を使用して再生利用事業計画認定制度(食品リサイクルループ)について発信する	6	2.67	1.11	2.50	0.50

(4) 課題「再生利用製品に対する付加価値の構築」

「再生利用製品に対する付加価値の構築」に対する予想に基づく有効な改善策の候補は、「再生利用製品を利用することによる栄養素以外の評価項目の研究を行う」である。「実施可能性の平均得点が 2.5 点以上」かつ、「改善可能性の平均得点が 2.5 点以上」であり、いずれの標準偏差も 1.25 未満であるため、「予想に基づく有効な改善策」と言える。

表 12 「再生利用製品に対する付加価値の構築」に対する予想に基づく
 有効な改善策の候補（改善策未実施のリサイクル業者）

課題	改善策	回答 事業者 数	実施可能性		改善可能性	
			平均得点	標準偏差	平均得点	標準偏差
再生利用製品に対する付加価値の構築	再生利用製品を利用することによる栄養素以外の評価項目の研究を行う	5	2.60	1.20	2.75	0.83

・改善策未実施事業者による予想に基づく有効な改善策（農業者）

(1) 課題「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（市民）」

「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（市民）」に対する予想に基づく有効な改善策は、ない。

(2) 課題「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者）」

「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者）」に対する予想に基づく有効な改善策は、ない。

(3) 課題「生産した農作物に対する付加価値の構築」

「生産した農作物に対する付加価値の構築」に対する予想に基づく有効な改善策の候補は、「リサイクルループという“物語性”を押し出して消費者への訴求に努める」である。この改善策は、「実施可能性の平均得点が 2.5 点以上」かつ、「改善可能性の平均得点が 2.5 点以上」であり、いずれの標準偏差も 1.25 未満であるため、「予想に基づく有効な改善策」と言える。

表 13 「生産した農作物に対する付加価値の構築」に対する予想に基づく
有効な改善策の候補（改善策未実施の農業者）

課題	改善策	回答 事業者数	実施可能性		改善可能性	
			平均得点	標準偏差	平均得点	標準偏差
生産した農作物に対する付加価値の構築	リサイクルループという“物語性”を押し出して消費者への訴求に努める	8	2.50	0.87	2.56	0.96

(4) 課題「制度の取り組む人員の確保」

「制度に取り組む人員の確保」に対する予想に基づく有効な改善策は、ない。

(5) 課題「肥飼料の安定した確保」

「肥飼料の安定した確保」に対する予想に基づく有効な改善策の候補は、「リサイクル業者、農業者で集まりの機会をつくる」である。この改善策は、「実施可能性の平均得点が 2.5 点以上」かつ、「改善可能性の平均得点が 2.5 点以上」であり、いずれの標準偏差も 1.25 未満であるため、「予想に基づく有効な改善策」と言える。

表 13 「肥飼料の安定した確保」に対する予想に基づく有効な改善策の候補
（改善策未実施の農業者）

課題	改善策	回答 事業者数	実施可能性		改善可能性	
			平均得点	標準偏差	平均得点	標準偏差
肥飼料の安定した確保	リサイクル業者、農業者で集まりの機会をつくる	8	2.75	0.83	2.63	0.86

(6) 課題「生産した農作物の販売先確保」

「生産した農作物の販売先確保」に対する予想に基づく有効な改善策の候補は、「既にループを形成している食品関連事業者知り合いの農業者を紹介してもらい協力をお願いする」である。この改善策は、「実施可能性の平均得点が 2.5 点以上」かつ、「改善可能性の平均得点が 2.5 点以上」であり、いずれの標準偏差も 1.25 未満であるため、「予想に基づく有効な改善策」と言える。

表 14 「生産した農作物の販売先確保」に対する予想に基づく有効な改善策の候補
（改善策未実施の農業者）

課題	改善策	回答 事業者数	実施可能性		改善可能性	
			平均得点	標準偏差	平均得点	標準偏差
生産した農作物の販売先確保	既にループを形成している食品関連事業者知り合いの農業者を紹介してもらい協力をお願いする	8	2.50	0.87	2.56	1.07

(7) 課題「参加事業者の増加」

「参加事業者の増加」に対する予想に基づく有効な改善策は、ない。

- ・改善策未実施事業者による予想に基づく有効な改善策まとめ

表 15 は、改善策未実施事業者による予想に基づく有効な改善策を一覧にしたものである。濃い橙色で示された改善策が「予想に基づく有効な改善策」で薄い橙色で示された改善策が「予想に基づくやや有効な改善策」である。

本文中の、改善策実施事業者による改善可能性に着目した結果（表 6-）と比較すると、食品関連事業者については、「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者）」という課題に対する「食品関連事業者に向けて、環境省や農林水産省から情報提供を行う」という改善策が「実施に基づく有効な改善策」であり、「予想に基づく有効な改善策」であった。

リサイクル業者については、「再生利用製品の販売先が難しい」という課題に対して、「興味を持ってくれた農業者にサンプルを無償提供し、食品リサイクルループに取り組むきっかけにしよう」という改善策、「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（市民）」という課題に対して、「施設見学・取材対応を積極的に受ける」という改善策、「食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者）」という課題に対して、「SNS（Facebook や Twitter 等）、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を使用して再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）について発信する」という改善策が、「実施に基づく有効な改善策」であり、「予想に基づく有効な改善策」であった。

農業者については、「生産した農作物に対する付加価値の構築」という課題に対して、「リサイクルループという“物語性”を押し出して消費者への訴求に努める」という改善策が「実施に基づく有効な改善策」であり、「予想に基づく有効な改善策」であった。

表 15 予想に基づく有効な改善策一覧

3者	課題	改善策	回答事業者数	実施可能性		改善可能性	
				平均得点	標準偏差	平均得点	標準偏差
食品関連事業者	食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者）	食品関連事業者に向けて、環境省や農林水産省から情報提供を行う	7	2.86	0.83	2.67	1.20
	農産物が安定して供給されない	年間予定表を作成し、計画的な策付けを生産者にお願ひする 前年の納入や取組等について反省する機会をつくる	11 10	2.82 3.00	1.03 1.00	2.50 2.71	1.23 1.32
リサイクル業者	再生利用製品の販売先確保が難しい	SNS (FacebookやTwitter等)、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）への情報提供を行い、農業者に制度の概要・メリット、再生利用製品の特徴について知ってもらう	7	2.86	1.12	2.80	0.98
		ブランド展開することによって再生利用製品を利用することに価値を持たせる	7	2.57	1.05	2.50	1.12
	興味を持ってくれた農業者にサンプルを無償提供し、食品リサイクルループへ取り組むきっかけにしよう	6	2.67	0.94	2.50	0.50	
	食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（市民）	施設見学・取材対応を積極的に受け付ける	3	4.00	0.00	3.67	0.47
	食品リサイクルループの周りからの認知度が低い（事業者）	SNS (FacebookやTwitter等)、ブログ、メディア（新聞や地元誌、ラジオなど）を使用して再生利用事業計画認定制度（食品リサイクルループ）について発信する	6	2.67	1.11	2.50	0.50
農業者	再生利用製品に対する付加価値の構築	再生利用製品を利用することによる栄養素以外の評価項目の研究を行う	5	2.60	1.20	2.75	0.83
	生産した農作物に対する付加価値の構築	リサイクルループという“物語性”を押し出して消費者への訴求に努める	8	2.50	0.87	2.56	0.96
	肥飼料の安定した確保	リサイクル業者、農業者で集まりの機会をつくる	8	2.75	0.83	2.63	0.86
	生産した農作物の販売先確保	既にループを形成している食品関連事業者に知り合いの農業者を紹介してもらい協力をお願いする	8	2.50	0.87	2.56	1.07

付録 14 参考及び引用 URL

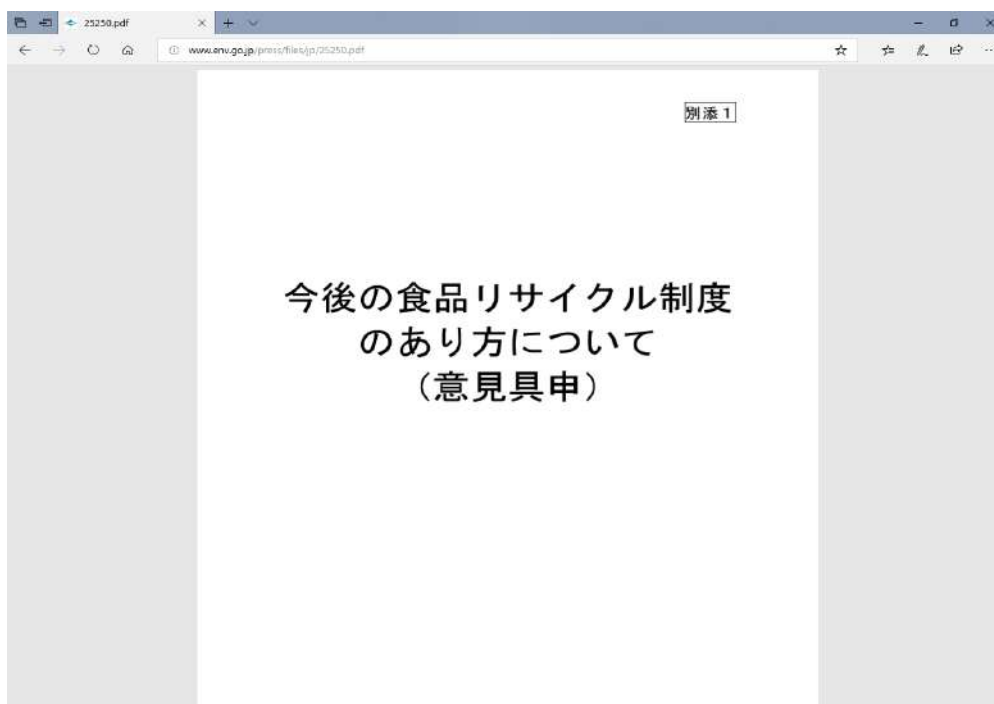
環境省：食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律の一部を改正する法律の概要

http://www.env.go.jp/recycle/food/01_about/h19_kaisei/kaisei-gaiyo.pdf

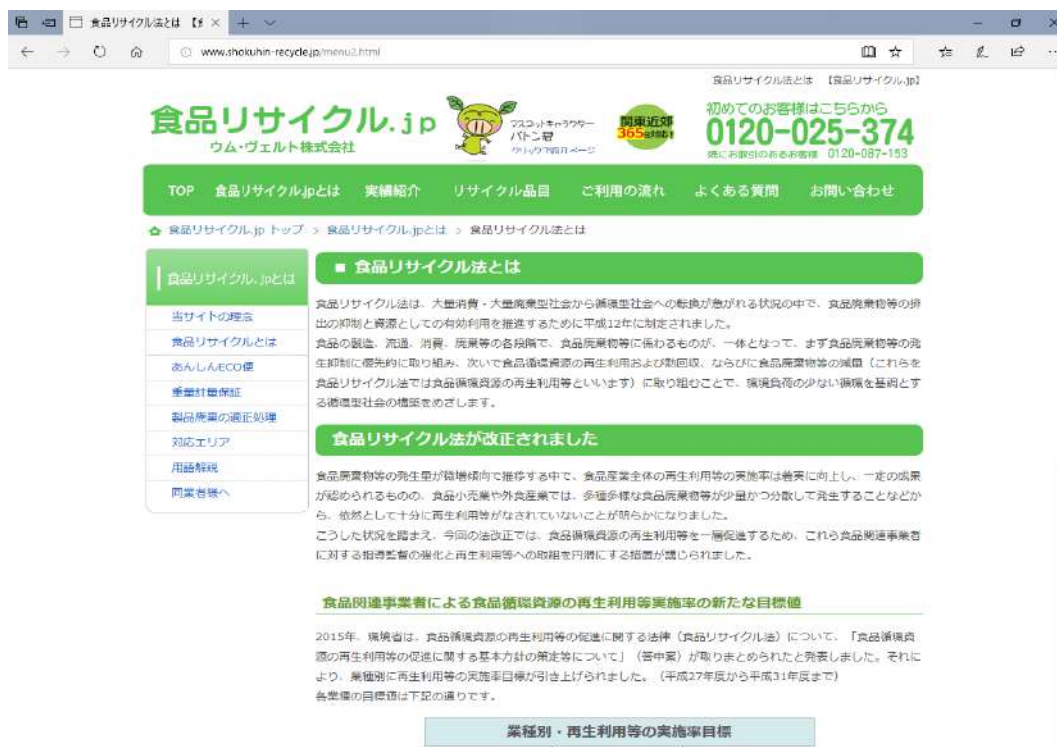


中央環境審議会：今後の食品リサイクル制度のあり方について（意見具申）

<http://www.env.go.jp/press/files/jp/25250.pdf>



食品リサイクル.jp : 食品リサイクル法とは <http://www.shokuhin-recycle.jp/menu2.html>



JFIA 一般財団法人食品産業センター：再生利用を促進する制度

<https://kankyo.shokusan.or.jp/food/f-3/f-3-1>



農林水産省・環境省：食品循環資源の再生利用等の促進に関する法律の施行状況
http://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/syokusan/recycle/h30_01/attach/pdf/index-4.pdf

